

秋田県埋蔵文化財センター年報

38・39

令和元(平成31)年度
令和2年度

2021・3

秋田県埋蔵文化財センター

シンボルマークは、北秋田市白板（しろざか）遺跡出土の
「君偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

沿革

昭和55年 2月	秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表
昭和55年10月26日	建設工事開始
昭和56年 8月31日	センター、第1収蔵庫完成
昭和56年10月 1日	設置条例施行、職員発令、業務開始
昭和56年11月 2日	落成記念式典挙行
平成 5年 1月	第2収蔵庫完成
平成10年 4月 2日	鷹巣町（現北秋田市鷹巣）に秋田北分室開設
平成11年12月20日	秋田市に秋田整理室開設
平成12年 4月 4日	秋田整理室が秋田中央分室となる
平成13年 4月 2日	機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の3課体制となる
平成13年 6月20日	秋田県甘肃省文化交流事業により交流員の相互交流開始
平成14年 3月 2日	秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行
平成15年10月17日	秋田県甘肃省文化交流事業磨嘴子遺跡合同発掘調査開始
平成15年10月30日	センター屋根、外壁、内部大規模改修工事
平成17年 4月 1日	男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設
平成20年 3月31日	北調査課、中央調査課閉課
平成20年 4月 1日	機構改革により総務班・調査班・資料管理活用班・中央調査班の4班体制となる。
平成22年 7月 1日	秋田市に中央調査班移転
平成24年 3月 6日	秋田県埋蔵文化財センター設立30周年記念式典挙行
平成28年 9月 4日	秋田県埋蔵文化財センター設立35周年記念講演会開催

組織・施設

1 組織



2 施設の概要

本所（総務班・調査班・資料管理活用班）

所在地 〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20

TEL 0187-69-3331 FAX 0187-69-3330

敷地面積	6,962.000m ²
本所建物	鉄筋コンクリート2階建
第1収蔵庫	鉄骨造平屋建
第2収蔵庫	鉄骨造平屋建
電気・ポンプ室	平屋建

中央調査班

所在地 〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町11-1

TEL 018-893-3901 FAX 018-893-3899

建物	鉄筋コンクリート平屋建	2,141.000m ²
----	-------------	-------------------------

男鹿収蔵庫

所在地 〒010-0502 秋田県男鹿市船川港比詰字解ヶ沢200

敷地面積	55,521.000m ²
建物	鉄筋コンクリート3階建

秋田県埋蔵文化財センタ一年報

38

令和元(平成31)年度

序

令和元年12月、当県の特別史跡大湯環状列石及び史跡伊勢堂岱遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産の登録に向けて日本からユネスコへ推薦されることが決定されました。

当センターでは、今年度、世界遺産登録の機運醸成を目指し、企画展「環状列石を世界へー藏出し！秋田の縄文ー」を開催しました。さらに、秋田の縄文文化を通して、地域の歴史に親しみ、地域への誇りと愛着を深めていただくとともに、広く世界の先史文化にも目を向けていただく機会として、出張展示、講演会、考古学セミナー等も縄文をテーマとした内容で実施しました。

発掘調査では、盛土遺構から多量の円筒上層式土器が出土した能代市茱萸ノ木遺跡、複式炉を設置する31棟を含む56棟の堅穴建物跡を検出した湯沢市赤塚遺跡等、縄文時代中期の集落遺跡で新しい発見が相次ぎました。また、異例の4月当初から調査を行った県・市連携文化施設整備事業に伴う久保田城跡発掘調査では、中土橋門跡や渋江氏上屋敷の門跡等が発見されるなど、大きな成果がありました。

本年報は、令和元年度に当センターが実施した事業活動をまとめたものであります。御活用いただくとともに、当センターの事業に一層の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、当センターの開設に深く携わり、平成2年度から6年間所長を務められた富樫泰時先生が、昨年の秋田県文化功労者表彰受章に続き地域文化功労者文部科学大臣表彰を受章されました。誠に喜ばしく、職員一同、心からお祝い申し上げます。

令和2年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所長 谷地 薫

目 次

3 8 令和元(平成31)年度

序

目次

第1章 令和元(平成31)年度の歩み	1
第2章 事業の概要	
第1節 発掘調査事業	
1 発掘調査一覧	2
(1) 発掘調査	
(2) 確認調査	
(3) 継続整理	
2 発掘調査概要	
(1) 茅原ノ木遺跡	4
(2) 烏野上岱遺跡	6
(3) 久保田城跡	8
(4) 才ノ神遺跡	10
(5) 赤塚遺跡	12
第2節 活用・普及事業	
1 活用・普及事業一覧	14
2 遺跡現地見学会	15
3 展示	
(1) 常設展	15
(2) 企画展	15
(3) あきた埋文出張展示	15
(4) 土器に生ける秋の草花展	16
4 講演会・講座	
(1) 講演会	17
(2) あきた埋文考古学セミナー	17
(3) 払田柵跡金曜講座	19
(4) 埋蔵文化財発掘調査報告会	19
(5) 県庁出前講座（一般）	19
5 体験教室	
(1) 主な体験メニューと概要	20
(2) オープンラボ	
①農業科学館まつり	20
②体験教室（児童）	21
③払田柵跡古代体験フェス2019	21
④農業科学館秋の感謝祭	21
⑤体験教室（児童～一般）	21
⑥サン・アグリンゼミナー	21
⑦埋蔵文化財発掘調査報告会体験教室	21
(3) 自然観察会in払田柵跡	22
6 学校利用・研修等	
(1) セカンドスクール	22
(2) インターンシップ	22
(3) 県庁出前講座（学校）	23
(4) 博物館実習	23
(5) 教員免許更新講習	23
(6) 中堅教員等資質向上研修	23
7 貸し出し	
(1) 貸し出しキット等	24
(2) 資料貸し出し	24
第3節 その他の活動	
1 図書整理・公開	
(1) 全国遺跡総覧への公開	25
(2) 秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」 への一般公開	25
2 刊行物	25
3 講演・研究論文等	26
4 職員研修会	
(1) 新任職員研修	27
(2) 不祥事防止研修	27
(3) 特別研修会	28
(4) 防災・避難訓練、交通安全講話	28
第3章 運営協議会	
1 第1回運営協議会	29
2 第2回運営協議会	30
職員名簿	32

第1章 令和元(平成31)年度のあゆみ

【平成31年】

- 4月 1日 新任式（本所、中央調査班）
4月 9日 平成30年度秋田県内発掘調査成果展閉幕（県生涯学習センター、3月12日～）
4月 27日 企画展「環状列石を世界へ～藏出し！秋田の縄文」（～令和2年2月23日）
第1回あきた埋文出張展示「片貝家ノ下遺跡最新情報！米代川流域の古代社会」
(大館郷土博物館、～6月23日)

【令和元年】

- 5月 8日 烏野上岱遺跡（能代市二ツ井町） 確認調査（～5月21日）
5月 18日 久保田城跡（秋田市千秋明徳町） 見学会
6月 3日 払田柵跡第153次調査（払田柵跡調査事務所）（～8月2日）
6月 15日 第1回あきた埋文考古学セミナー
「火内村はどこにあったのか？～片貝家ノ下遺跡と大館の古代社会～」（大館郷土博物館）
6月 17日 あきた埋文出張展示「環状列石を世界へ！ 秋田の縄文巡回展」第1回
(県立図書館、～7月23日)
茱萸ノ木遺跡（能代市二ツ井町） 発掘調査（～11月21日）
6月 18日 第1回埋蔵文化財センター運営協議会（本所）
7月 1日 オノ神遺跡（由利本荘市） 発掘調査（～10月2日）
7月 13日 第2回あきた埋文考古学セミナー「環状列石考」
7月 20日 史跡払田柵跡第153次調査 遺跡見学会
7月 22日 横堀中屋敷遺跡（湯沢市横堀） 確認調査（～8月2日）
7月 26日 久保田城跡（秋田市千秋明徳町） 発掘調査終了（～2月12日）
7月 27日 自然観察会in払田（払田柵跡）
8月 5日 赤塚遺跡（湯沢市横堀） 発掘調査（～11月15日）
8月 9日 扯田柵跡金曜講座（第1回）「考古学とは何か」
8月 28日 あきた埋文出張展示「環状列石を世界へ！ 秋田の縄文巡回展」第2回
(湯沢市・湯沢生涯学習センター、～9月8日)
9月 1日 第3回あきた埋文考古学セミナー「土器から読みとる縄文人の心」
9月 3日 烏野上岱遺跡（能代市二ツ井町） 発掘調査（～11月6日）
9月 6日 扉田柵跡金曜講座（第2回）「文献史学から秋田の古代を読み解く」
9月 14日 茱萸ノ木遺跡（能代市二ツ井町） 現地見学会
9月 21日 オノ神遺跡（由利本荘市） 現地見学会
9月 23日 埋蔵文化財センター講演会「環状列石を世界へ！」（秋田市・にぎわい交流館AU）
10月 2日 あきた埋文出張展示「環状列石を世界へ！秋田の縄文」
(秋田市農山村地域活性化センター「さとびあ」、～11月4日)
10月 3日 公立埋蔵文化財センター協議会北海道・東北地区ブロック会議（札幌市、～10月4日）
10月 4日 扉田柵跡金曜講座（第3回）「土器から考える秋田の原始・古代」
10月 16日 甘肅省交流員研修（～10月17日）
10月 19日 あきた埋文出張展示「環状列石を世界へ！秋田の縄文巡回展」第3回
(由利本荘市修身館、～11月17日)
10月 28日 片貝家ノ下遺跡（大館市比内町） 確認調査（～10月29日）
11月 1日 扉田柵跡金曜講座（第4回）「東北古代史における払田柵跡」
11月 5日 ツブキ遺跡・菅先遺跡（にかほ市象潟町） 確認調査開始（～11月19日）
11月 16日 第4回あきた埋文考古学セミナー「芸術の<時層>を旅する～芸術人類学の視点から～」
(由利本荘市文化交流館カダーレ)

【令和2年】

- 2月 6日 埋蔵文化財センター第2回運営協議会（本所）
3月 14日 令和元年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会（県生涯学習センター）
※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止のため中止
3月 17日 令和元年度秋田県内発掘調査成果展（県生涯学習センター、～4月5日）
※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止のため中止
3月 31日 離任式（本所、中央調査班）

第2章 事業の概要

第1節 発掘調査事業

1 発掘調査一覧

(1) 発掘調査

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査期間	面積 (m ²)	主な時代： 性格
1	菜黄ノ木遺跡	通常砂防工事（オンデの沢） 県建設部	能代市二ツ井町 5/16-11/21	2,328	縄文：集落跡
2	鳥野上岱遺跡	一般国道7号能代地区線形改良事業 国土交通省	能代市二ツ井町 8/19-11/6	6,800	縄文：狩猟場
3	久保田城跡	県・市連携文化施設整備事業 県観光文化スポーツ部	秋田市千秋明徳町 2/12-7/26	10,500	平安：集落跡 江戸：城館跡
4	才ノ神遺跡	河川改修工事（芋川） 県建設部	由利本荘市徳沢 6/10-10/2	1,290	縄文：集落跡
5	赤塚遺跡	国道13号横堀道路事業 国土交通省	湯沢市横堀 8/5-11/15	2,921	縄文：集落跡

(2) 確認調査

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査期間	面積 (m ²)	主な時代： 性格
1	鳥野上岱遺跡	一般国道7号能代地区線形改良事業 国土交通省	能代市二ツ井町 5/8-5/21	9,900	縄文：狩猟場
2	横堀中屋敷遺跡	国道13号横堀道路事業 国土交通省	湯沢市小野・横堀 7/22-8/2	6,900	縄文：集落跡
3	ヲフキ遺跡 菅先遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省	にかほ市象潟町 11/5-11/19	6,000	縄文：散布地
4	片貝家ノ下遺跡	大館工業団地開発事業 県産業労働部	大館市比内町 10/28-29	3,500	平安：集落跡・ 墓域・水田跡

(3) 継続整理（報告書刊行）

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査年度	面積 (m ²)	主な時代： 性格
1	手の上遺跡	広域河川改修工事（豊川） 県建設部	湯上市昭和町 H29年度調査	720	平安～鎌倉： 河川跡

(参考) 払田柵跡調査事務所

No.	遺跡名	調査目的	所在地	面積 (m ²)	主な時代： 性格
			調査期間		
1	史跡払田柵跡	史跡内容確認	大仙市払田・美郷町本堂城回 6/3-9/2	187	平安：城柵官衙跡
2	猫袋遺跡	払田柵跡関連遺跡調査	横手市雄物川町 11/5-11/15	87	奈良・平安： 官衙開闢又は集落跡

(参考) 市町村教育委員会等による発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査機関	所在地	面積 (m ²)	主な時代： 性格
		調査目的・事業名等	調査期間		
1	大館城跡	大館市教育委員会 大館市民体育館・武道館解体工事	大館市字中城 11/12-12/27	664	中世・近世： 城館跡
2	史跡檜山安東氏城館跡 (檜山城跡)	能代市教育委員会 史跡内容確認	能代市檜山 6/10-11/27	208	中世・近世： 城館跡
3	史跡秋田城跡	秋田市観光文化スポーツ部 秋田城歴史資料館 史跡内容確認調査	秋田市寺内焼山 5/8-9/27	564	古代： 城柵官衙
4	秋田県指定史跡 万固山天徳寺	秋田市観光文化スポーツ部 保存修理事業	秋田市泉三嶽根 6/3-10/31	1,057	江戸：寺院
5	上新城中学校遺跡	国際教養大学アジア地域研究連携機構 学術調査	秋田市上新城 8/1-8/9	25	繩文： 集落跡・墓域
6	柴崎遺跡	横手市教育委員会 県営農地集積加速化基盤整備事業	横手市赤坂 5/13-8/9	4,000	平安：集落跡
7	金沢城跡	横手市教育委員会 後三年合戦関連遺跡調査事業	横手市金沢 6/17-12/13	200	平安：城館跡
8	蝦夷塚古墳群	雄勝町・駅家研究会 学術調査	横手市雄物川町造山 10/6-10/20	215	繩文：集落跡 奈良：墓域
9	南鎌ヶ崎遺跡	美郷町教育委員会 遺跡地図作成	美郷町六郷東根 9/1-10/16	80	平安：寺院
10	太田遺跡	美郷町教育委員会 県営農地集積加速化基盤整備事業	美郷町安城寺 6/4-7/2	652	平安：散布地
11	張山館	美郷町教育委員会 県営農地集積加速化基盤整備事業	美郷町安城寺 7/2-7/31	276	平安：散布地
12	新谷地西遺跡	由利本荘市土谷 学術調査	由利本荘市土谷 5/23-5/30	58	平安：散布地
13	上掩遺跡	東成瀬村教育委員会 東成瀬村繩文ロマン事業	東成瀬村田子内 7/17-10/4	131	繩文：集落跡

2 発掘調査概要

(1) 茅薙ノ木遺跡

①調査要項

所 在 地	秋田県能代市二ツ井町荷上場字茅薙ノ木167ほか
調査期間	令和元年5月16日～11月21日
調査面積	2,328m ²
遺跡の時代	縄文時代（中期、後期）
遺跡の性格	集落跡
事業名	通常砂防工事（オンデの沢）
事業関係機関	秋田県山本地域振興局建設部
調査担当	小山美紀、森谷康平、久住駿介、小松和平

②調査概要

検出遺構		主な出土遺物
縄文時代 盛土遺構2基 列石遺構6条 焼土遺構16基 フ拉斯コ状土坑2基 配石遺構34基 土坑45基 性格不明遺構13基 竪穴建物跡21棟 柱穴様ピット279基 土器埋設遺構23基		縄文時代 土器、土製品、 石器、石製品

茅薙ノ木遺跡は、JR二ツ井駅から北東約3.7km、藤琴川右岸の河岸段丘上に立地する。今年度は全調査対象面積8,238m²のうち北東部2,328m²の発掘調査を行った。

調査の結果、縄文時代中期の盛土遺構、列石遺構、配石遺構、竪穴建物跡、土器埋設遺構等を検出し、土器・石器類も多量に出土したことから、大規模な集落跡であったことが判明した。

調査区西側の尾根部に形成された盛土遺構は、尾根の頂部及び南北両斜面の約430m²の範囲に最大厚1.5mの人が堆積土が認められた。出土土器等から、縄文時代中期前葉に南側斜面から土器等の遺棄と土の投棄が始まり、その後、尾根頂部から北側斜面に拡大したと推定される。尾根頂部の平坦面では、竪穴建物跡、土坑が重複して検出された。盛土中には円筒上層式土器が多量に含まれており、最上層で中期末の土器埋設遺構が検出されたことから、中期前葉から中期末までの長期間にわたって居住と盛土行為が継続していたと考えられる。盛土層中からは、土器、石器の他、土偶、石棒、ミニチュア土器等も多量に出土した。調査区北端部で検出された盛土遺構は、人為堆積と重複する竪穴建物跡等が認められたが、主要部が調査区外へ続いているため全容は不明であった。

列石遺構は、南側の盛土遺構がある尾根の北側斜面中腹から据にかけて4条、裾の平坦面から2条が検出された。すべて南東～北西方向に並行する。両端とも調査区外へ続くため規模は不明である。配石遺構は、円礫を円形に配したものや集石状のものがある。そのうちの1基は、円礫を三重から四重の円形に配し、西側のみにリボン形に末端が開く2列の石列を付加する形態である。東側は調査区外であるが、西側石列と対称の位置にも円礫の一部が認められることから、多重円形配石の東西両側に末端が開く2列の石列が付く蝶ネクタイ形の配石遺構と推定される。推定東西長は約5mである。出土土器から、これらの列石遺構、配石遺構は縄文時代中期末に構築されたものと考えられる。



盛土遺構（奥）と並行
する列石遺構（中央）
(北東から)



多重円に列石が付属
する配石遺構
(南西から)



南側盛土遺構の
土層堆積状況
(東から)

(2) 烏野上岱遺跡

①調査要項

所 在 地	秋田県能代市二ツ井町駒形字多郎兵衛沢50-1ほか
調 査 期 間	令和元年8月19日～11月6日
調 査 面 積	6,800m ²
遺 跡 の 時 代	縄文時代（中期）
遺 跡 の 性 格	散布地・狩猟場
事 業 名	一般国道7号能代地区線形改良事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所
調 査 担 当	加藤朋夏、伊藤智範、赤星純平

②調査概要

検出遺構	主な出土遺物
縄文時代 陥し穴11基 土坑25基 柱穴様ピット36基	縄文時代 土器、石器
時期不明 炭窯1基	

烏野上岱遺跡は、米代川左岸に形成された河岸段丘上、標高約63mの平坦地に立地する。南から北に向かって延びる舌状台地の付け根にあたり、遺跡の北側には縄文時代中期の大規模な集落跡である鳥野遺跡が位置している。

本遺跡は、平成16（2004）年度にも高速道路建設に伴う発掘調査が行われており、鳥野遺跡と同時期の集落跡であることが判明している。この調査ではアスファルト工房と考えられる堅穴建物跡が検出されたことから、遺跡から南西2kmにある天然アスファルト産出地との関係が注目された。

今年度は、平成16年度調査区の南側隣接地の発掘調査を行った。当初は事前の確認調査によって要本発掘調査と判断した範囲内の、3,400m²を対象として調査を開始したが、並行して実施されていた立会調査によって遺構が検出された範囲を追加し、合計6,800m²で本発掘調査を実施した。

縄文時代の陥し穴は、標高のやや高い尾根上に、並んで検出された。細長い溝状の形態をしており、長さは2.2mから3.9m、開口部の幅は約70cmで、下部では50cm以下と狭くなる。深さは約1mで、最も深いものは1.3mを測る。埋土中から遺物は出土しなかった。

また、石器の集中出土地点を3か所確認した。1か所は調査区西側、もう1か所は調査区東側に位置している。それぞれ直径2.5～3mの範囲に剥片石器がまとまっていた。いずれも珪質頁岩製で、剥片、碎片の他に2次加工が施された剥片も含まれ、一部では接合関係も認められた。他の1か所は調査区中央や北側の沢状の窪地で、直径2.3mほどの範囲に13点の圓石がまとまって出土した。

この他、時期不明の円形の炭窯も確認された。長軸2.4m、短軸1.9m、確認面からの深さが13cmの浅い皿状の掘り込みで、その縁にはほぼ周全するように焼土が形成されていた。一部で焼土が途切れしており、この部分が焚口だったと推察される。



調査区遠景
(南東から)



路し穴
(北から)



炭窯跡
(北から)

(3) 久保田城跡

①調査要項

所 在 地	秋田県秋田市千秋明徳町2-52
調 査 期 間	平成31年2月12日～令和元年7月26日
調 査 面 積	10,500m ²
遺 跡 の 時 代	縄文時代、弥生時代、平安時代、江戸時代
遺 跡 の 性 格	散布地（縄文時代、弥生時代）、集落跡（平安時代）、城郭跡（江戸時代）
事 業 名	県・市連携文化施設整備事業
事業関係機関	秋田県観光文化スポーツ部
調 査 担 当	宇田川浩一、村上義直、伊藤智範、武内真之、山村剛、赤星純平、富樫那美、 巴亜子、乙戸崇、安田創、森谷康平、久住俊介、大上立朗、小松和平

②調査概要

検出遺構	主な出土遺物
縄文時代 陥し穴8基	縄文時代 土器、石器剥片
平安時代 壁穴建物跡8棟、土師器焼成遺構1基 掘立柱建物跡1棟、土坑2基	弥生時代 土器
江戸時代 土壘1条、配石遺構4基、掘立柱建物跡6棟、 道路跡1条、壁穴建物跡3棟、井戸跡14基、 壁穴状遺構3基、焼土遺構28基、柱列跡7条、 柱穴様ピット2,338基、溝跡55条	平安時代 土師器、須恵器、 縄釉陶器 江戸時代 陶磁器、漆器、木簡、 木製品、硯、砥石、 鉄滓

久保田城は、JR秋田駅から北西500m、標高11～38mの千秋公園台地に立地し、本丸、二の丸、三の丸、北の丸及び周囲を巡る堀等からなる。江戸時代の秋田藩主佐竹氏の居城である。

三の丸にある県民会館等の解体と新文化施設建設に伴い、平成30（2018）年度から事前発掘調査を実施し、今年度は2年目である。既に終了した調査区北辺部1,600m²を除く全域を調査した。

調査区は、江戸時代初頭に南東へ傾斜する丘陵地斜面を切土・盛土された場所にあたる。調査の結果、3mを超える盛土層を境に、上は江戸時代、下は平安時代から縄文時代にわたる遺構・遺物が検出された。

江戸時代にかかる主な調査成果は、久保田城の一角をなす中土橋門構形の遺構構成が判明したことと、渋江家上屋敷の正門・脇門の位置が確定したことの2点である。中土橋門構形は、食い違う3本の土壘によって構成され、その間を道路と水路が通る。構形内の道路は、東西両脇に側溝が設置されている。東側は幅90cmの木製U字溝が31m以上敷設され、西側には凝灰岩製の地覆石が縁石として配列され、道路敷は砂利舗装されていた。

渋江家上屋敷の脇門は、調査区東辺南部で検出した。中土橋通りから脇門に至る道との分岐付近には、正保絵図（1644年）に描かれている井戸があった。正門は、調査区東辺中央部で中土橋通りに面して検出した。新旧2段階がある。新段階は、宝暦9（1759）年以後に完成した礎石建ちの櫓門で、門柱間を地覆石で繋ぎ、石造りの排水溝を整備する。古段階は、掘立柱で柱配置は新段階と共通する。新旧間に天和2（1682）年の大火による焼土面が挟在し、焼失後、掘立柱で一回以上再建されている。



中土橋門構形と渋江家上屋敷脇門

(北西から)



渋江家上屋敷正門排水溝と地覆石

(西から)



渋江家上屋敷正門礎石と排水溝

(南西から)

(4) 才ノ神遺跡

①調査要項

所 在 地	秋田県由利本荘市徳沢字才ノ神63-2ほか
調 査 期 間	令和元年6月10日～10月2日
調 査 面 積	1,290m ²
遺 跡 の 時 代	縄文時代（前期・中期）
遺 跡 の 性 格	集落跡
事 業 名	河川改修事業（芋川）
事業関係機関	秋田県由利地域振興局建設部
調 査 担 当	巴 亜子、大上立朗

②調査概要

検出遺構	主な出土遺物
縄文時代 捨て場1か所、竪穴建物跡10棟、土器埋設遺構2基、焼土遺構8基、土坑14基、柱穴様ピット89基	縄文時代 土器、土製品、石器

才ノ神遺跡は、子吉川の支流芋川左岸の河岸段丘上に立地する。標高は約20mである。芋川の現在の流路は、元文年間（1736～1741）に新田開発のため開削されたもので、遺跡のある段丘は本来北西の丘陵と連続しており、東に張り出す舌状台地で、その先端に遺跡が形成されたと考えられる。本遺跡の発掘調査は、これまで2回行われており、昭和54（1979）年の調査では、縄文時代中期中葉の集落跡が発見されている。今年度は、このときの調査範囲の南側の発掘調査を行った。

調査の結果、縄文時代中期の竪穴建物跡10棟、土器埋設遺構2基、焼土遺構8基等を検出し、昭和54年の調査で検出した縄文時代中期中葉の集落跡の範囲がさらに南東側に広がっていることが判明した。

縄文時代中期中葉の生活面は平坦で南側に緩く傾斜しており、9棟の竪穴建物跡が重複せずに分布している。竪穴建物跡は長軸3.5～5.8m、短軸2.3～4.5mの楕円形で、床面中央部には、礫を方形に配置した石圓炉又は土器埋設石圓炉が設置されている。1棟のみ検出した縄文時代中期末葉の竪穴建物跡は、長軸4m、短軸3mの楕円形で、北壁に接して掘り込み、2個の礫、埋設土器が連なる複式炉が伴う。この竪穴建物跡は、板状や棒状を含む多量の炭化物が床面を覆っており、焼失家屋と考えられる。

土器埋設遺構の1基は、内傾する無文の口縁部の下に橋状把手が巡り、赤色に着色された痕跡の残る土器の上半部が正位に埋設されたものである。

遺物は、土器の他、石槍、石鎌、石錐、敲石等の石器、珪質頁岩の原石や表皮の残る石核、剥片が出土した。三角形土製品、ミニチュア土器も出土した。

縄文時代中期の生活面の約40cm下からは、縄文時代前期の遺物包含層が確認された。この層は南東側に大きく傾斜して堆積しており、前期における段丘南縁部と考えられる。斜面に多量の遺物が遺棄される捨て場が形成されていた可能性があり、来年度も調査を継続する予定である。



遺跡遠景
(南から)



土器埋設構
(東から)



竪穴建物跡
(西から)

(5) 赤塚遺跡

①調査要項

所 在 地	秋田県湯沢市横堀字赤塚174ほか
調 査 期 間	令和元年8月5日～11月15日
調 査 面 積	2,921m ²
遺 跡 の 年 代	縄文時代（中期）、江戸時代
遺 跡 の 性 格	集落跡（縄文時代）、散布地（江戸時代）
事 業 名	国道13号横堀道路事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所
調 査 担 当	山村 剛、宇田川浩一、安田 効

②調査概要

検出遺構	主な出土遺物
縄文時代 竪穴建物跡56棟、焼土遺構35基、土器埋設遺構7基、 捨て場1か所、プラスコ状土坑1基、土坑88基、 柱穴様ピット115基、配石遺構3基、集石遺構16基	縄文時代 土器、土製品、 石器、石製品 江戸時代 陶磁器

赤塚遺跡は、JR奥羽本線横堀駅の南1.5km、役内川右岸の標高158～159mの自然堤防上に立地する。調査対象面積6,720m²のうち、今年度は南側の2,921m²を調査した。

調査の結果、縄文時代中期後葉の竪穴建物跡56棟、土坑墓24基等が検出され、墓域を伴う集落跡であることが判明した。竪穴建物跡は、調査区南側で検出した旧河川跡に近接して分布する。重複が著しく、多くは砂や泥などの洪水堆積物で埋まっている。洪水で埋まるたびに建て替えが行われ居住が継続していたものと推測される。

竪穴建物跡のうち最大のものは、調査区中央やや南西側にあり、直径5mの円形で、深さは80cmである。南側壁に接して土坑、石匂い、埋設土器からなる複式炉が設置されている。床面には径0.8～1.2mの柱穴が4基、壁際には土留めを設置したと推測される壁溝が巡る。南東側の一部では壁溝が途切れおり、出入り口と考えられる。東側に頁岩の剥片が集められた浅い掘り込みがある。埋土中からは土偶の頭部と胸部の破片が出土した。

遺跡内からは多数の複式炉が検出された。炉の形態は、土坑、石匂い、埋設土器が連なるもの他、石組の中心に土器を埋設したもの、埋設土器と少数の石を簡単に組むもの、石組だけのものなど多様である。

土坑墓や土器埋設遺構は、旧河川跡沿いの調査区中央やや東側及び北側を中心に分布する。24基検出された土坑墓は、平面形が楕円形と円形の2種類があり、大小の円錐を並べて埋設するものや、土器、両刃の異形石器、ヒスイ製の有孔石製品を副葬するものがある。土器埋設遺構には、ベンガラで赤彩した鉢形土器や底部を欠いた深鉢形土器が使用されている。

旧河川跡の川岸からは、多量の土器が出土し、焼土遺構も検出されたことから、捨て場として使用されたと考えられる。



遺跡遠景

(北から)



壁溝がめぐる竪穴建物跡

(南から)



重複する竪穴建物跡

(南東から)

第2節 活用・普及事業

1 活用・普及事業一覧

事業名				主な内容	開催時期など	対象	事業名は簡略化
見学会	遺跡現地見学会	久保田城跡			5/18	一般	
		史跡払田柵跡第153次調査			7/20	一般	
		茱萸ノ木遺跡			9/14	一般	
		才ノ神遺跡			9/21	一般	
		赤塚遺跡			10/26	一般	
展示	企画展 あきた埋文出張展示	藏出し！秋田の繩文			4/27～ 2/23	一般	
		片貝家ノ下遺跡最新情報！米代川流域の古代社会			4/27～ 6/23	一般	
		環状列石を世界へ！秋田の繩文巡回展			6/17～ 7/23	一般	
		環状列石を世界へ！秋田の繩文巡回展			8/28～ 9/ 8	一般	
		環状列石を世界へ！秋田の繩文			10/ 2～11/ 4	一般	
		環状列石を世界へ！秋田の繩文巡回展			10/19～11/17	一般	
		土器に生ける草花展	土器に親子で秋の草花を生けて展示		9/26～10/ 2	小/親子	
講演会・講座	講演会 あきた埋文考古学セミナー	環状列石を世界へ			9/23	一般	
		演題：火内村はどこにあったのか？			6/15	一般	
		演題：環状列石考			7/13	一般	
		演題：土器から読み取る繩文人の心			9/ 1	一般	
		演題：芸術の<時層>を旅する			11/16	一般	
		演題：考古学とは何か			8/ 9	一般	
		演題：文献史学から秋田の古代を読み解く			9/ 6	一般	
埋蔵文化財発掘調査報告会	【払田柵跡関連】	演題：土器から考える秋田の原始・古代			10/ 4	一般	
		演題：東北古代史における払田柵跡			11/ 1	一般	
		演題：奈良・平安時代の美術史入門			1/10	一般	
		発掘調査成果報告と出土品・写真パネルの展示			3/14	一般	
		報告会			※中止		
体験教室	県庁出前講座(一般)	県庁出前講座(一般)	成沢地区の遺跡 第3回西山を歩こう会		11/ 3	一般	
		オープンラボ	農業科学館まつり		6/30	小～一般	
学校利用	セカンド・スクール インターンシップ	体験教室（児童）【県庁出前講座】	夏・冬休み	小			
		払田柵跡古代体験フェス2019			8/ 8	小～一般	
		農業科学館秋の感謝祭			10/ 5	小～一般	
		体験教室（児童～一般）【県庁出前講座】			10/27	小～一般	
		サン・アグリゼミナール			12/14	小～一般	
		埋蔵文化財発掘調査報告会体験教室			3/14	小～一般	
		払田柵跡関連	自然観察会in払田柵跡		7/27	小/親子	
・研修等	セカンド・スクール	センター内・出土品見学、体験学習など			通年	小/中/高	
	インターーンシップ	出土品整理作業や普及活用事業などの職場体験			7/31～ 8/ 2	中/高	
	県庁出前講座(学校)	サマースクール			8/19	大	
貸出・資料貸し出し	冬休みこどもゆざわ学				7/30	小	
	博物館実習	考古学遺物の取り扱い、資料収蔵整理など			1/ 9	小	
	教員免許更新講習	施設・出土品見学			8/ 2	教員	
	中堅教員等資質向上研修	施設・出土品見学、出土品整理作業体験など			7/ 2～ 7/ 4	教員	
資料貸し出し	貸し出しキット等	体験キット、映像資料等の貸し出し			通年	学校等	
	資料貸し出し	収蔵資料の貸し出し、掲載許可			通年	一般	

2 遺跡現地見学会

安全が確保された遺跡において発掘調査中の適切なタイミングで現地見学会を実施し、遺跡の発掘現地において調査成果を県民に公開する。

(1) 久保田城跡現地見学会	期日：5月18日（土）	会場：秋田市	来場者：450名
(2) 史跡払田柵跡第153次調査	期日：7月20日（土）	会場：大仙市	来場者：40名
(3) 萩原ノ木遺跡	期日：9月14日（土）	会場：能代市	来場者：81名
(4) 才ノ神遺跡	期日：9月21日（土）	会場：由利本荘市	来場者：54名
(5) 赤塚遺跡	期日：10月26日（土）	会場：湯沢市	来場者：95名

5遺跡で行われ、合わせて720名が参加した。このうち秋田市の中心部にある久保田城跡では450名もの見学者が訪れ、旧県民会館跡地から見つかった遺構の数々に驚きの表情を浮かべていた。

3 展示

（1）常設展

これまでに発掘調査した遺跡の出土品を厳選し、旧石器時代から江戸時代まで時代順に展示。見学者によりよく身近に埋蔵文化財を理解して頂くために「いつでもギャラリートーク」を行っている。

	開館時間	見学可能箇所	※は職員の案内によって可能
平 日	9:00～16:00	特別展示室・第1収蔵庫(※)・整理室(※)・中央調査班展示室	
土・日・祝日	9:00～16:00	特別展示室	

（休館日：1月1～3日、成人の日、建国記念の日、春分の日、12月28日～31日）

（2）企画展

年度ごとにテーマを設定し、当センターの収蔵資料を中心に展示する。

テーマ：『蔵出し！秋田の縄文』

期間：平成31年4月27日（土）～令和2年2月23日（日）

会場：埋蔵文化財センター特別展示室 来場者：1,724名（1月31日現在）

縄文土器を中心とし、各時代を代表する土器を時代順に並べた。縄文時代前期から中期にかけては、秋田県の南北で使用された土器のちがいがわかるように展示了した。

（3）あきた埋文出張展示

県内持ち回りで当センター収蔵遺物やその地域の埋蔵文化財に関する最新情報などを展示する。

テーマ：『片貝家ノ下遺跡最新情報！米代川流域の古代社会』

期間：4月27日（土）～6月23日（日）

会場：大館郷土博物館 美術工芸展示室 来場者：555名

平成30年度に行った片貝家ノ下遺跡の地中レーダー探査によつてわかつた最新情報を写真パネルや模型で紹介するとともに、古代の米代川流域における集落・生業・墓と祭祀のそれぞれの特徴を主として当センターの発掘資料を展示了した。



「米代川流域の古代社会」展示状況

テーマ：『環状列石を世界へ！秋田の縄文巡回展』

期間：第1回 6月17日（月）～7月23日（火）	会場：県立図書館 特別展示室
第2回 8月28日（水）～9月8日（日）	会場：湯沢生涯学習センター 展示室
第3回 10月19日（土）～11月17日（日）	会場：由利本荘市修身館 体験学習室
来場者：第1回 3,624名 第2回 254名 第3回 504名	

「秋田の縄文」をテーマとした巡回展を行った。展示は、「縄文土器の美」と「縄文モード」の2つのテーマで構成され、様々な形や文様の土器を羅列し縄文土器の多様性を感じてもらうとともに、縄文人の精神世界を表すかのような不思議な遺物を集め、縄文の魅力をアピールした。第1回では、会期中に同館で行われる第2回あきた埋文考古学セミナーのテーマにあわせ、山形県遊佐町から青銅製刀子のレプリカを借用し、展示に加えた。また、遺物展示と併せて、世界遺産登録を目指す北海道・北東北の縄文遺跡群の解説パネルの展示も行った。



第2回 県立図書館展示状況

テーマ：『環状列石を世界へ！秋田の縄文』

期間：10月2日（水）～11月4日（月）

会場：秋田市農山村活性化センター さとびあ 正面ホール 来場者：1,925名

会場である上新城地区と周辺の遺跡を中心に、「秋田の縄文」をテーマとした展示を行った。目玉の1つとして、秋田市から土偶を借用・展示了。また、施設内に保管されていた、34年前に上新城中学校生が採集した遺物を展示了ところ、地域内で大きな反響があった。上新城小学校生も見学に訪れ、地域活性化の一助になった。



第5回 さとびあ展示状況

（4）土器に生ける秋の草花展

農業科学館との連携事業として開催している展示で、埋蔵文化財センターでは所蔵する縄文土器や須恵器などを提供している。

期間：9月26日（木）～10月2日（水）

会場：県立農業科学館（ホワイエ） 来場者：309名

今回は富ヶ沢遺跡および竹原窯跡から出土した須恵器（10点）に東大曲小学校の親子がリンドウ、シュウメイギク、ホトトギス、ガマズミなど秋を感じさせる草花を生けて展示了。



農業科学館での展示状況

4 講演会・講座

(1) 講演会

当センター主催で年度に1回、県内の考古学に関わる講演会を開催する。

開催日：令和元年9月23日（月） 会場：にぎわい交流館AU 参加者：65名

主 題：『環状列石を世界へ』

演題1：「北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録について」

講師：秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室 文化財主査 新海 和広 氏

演題2：「北東北の環状列石はなぜ造られ、そして廃棄されたのか—人口変動に対する藝術的対応としての伊勢堂岱と大湯一」

講師：立命館大学立命館グローバル・イノベーション機構 助教 中村 大 氏

新海氏は、北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた取り組みを中心に、17の構成資産の属性と伊勢堂岱遺跡と大湯環状列石の特徴を解説した。

中村氏は、環状列石の盛衰を縄文時代の人口変動という切り口で洞察し、社会的な問題への心理面での対応を〈藝術的対応〉とした。そして、人口増加に伴い多くの人が社会や文化的イメージを共有するためのシンボルとして環状列石が作られ、やがて人口減少に起因する意識や価値観の変化により環状列石は廃棄され構築されなくなったとした。

(2) あきた埋文考古学セミナー

あきた埋文出張展示の展示期間中、展示内容に合わせた講演を開催する。

第1回 『火内村はどこにあったのか？～片貝家ノ下遺跡と大館の古代社会～』

開催日：6月15日（土） 会場：大館郷土博物館 美術工芸展示室 参加者：75名

講師：高橋 学 氏（前埋蔵文化財センター所長）

共催：大館郷土博物館

講演では、2015・2016年に行われた確認調査で分かったことや2017・2018年と2回実施されたレーダー探査から得られた情報を写真や図面を用いて紹介された。878年〔元慶2〕に起こった「元慶の乱」について『日本三代実録』で名指しされている「野代」「権淵」「火内」「上津野」の村々がどこにあったのか、これまでの発掘調査から推察できる事柄が述べられた。講演に続き、出張展示『片貝家ノ下遺跡最新情報！～米代川流域の古代社会～』の解説を高橋氏が行い参加者から多くの質問がよせられた。



高橋氏による展示解説の様子

第2回 『環状列石考』

開催日：7月13日（土） 会場：秋田県立図書館 多目的ホール 参加者：57名

講師：小林 克 氏（元埋蔵文化財センター所長）

共催：県立図書館

世界遺産登録をめざす「北海道・北東北の縄文遺跡群」の小牧野遺跡および関連資産の鷺ノ木遺跡や秋田県内に見られる環状列石と大館周辺地域における現代墓の配置を比較しながらそれぞれの特徴が述べられた。講演に続き、出張展示『環状列石を世界へ！秋田の縄文巡回展』の展示解説が行われ縄文遺跡群の価値や秋田県内から出土した遺物について紹介された。



小林克氏による展示解説の様子

第3回 『土器から読み取る縄文人の心』

開催日：9月1日（日） 会場：湯沢生涯学習センター 参加者：32名

講師：谷地 薫（埋蔵文化財センター所長）

共催：湯沢市教育委員会

雄物川流域の縄文中期後葉の遺跡を中心に、出土した土器文様の変化を分析・分類し、土器の新旧関係を推定しながら作り手である縄文人の意識の変化を推察した。講演の途中で、原体の回転施文を実演スクリーンへ投影したところ、大変好評であった。講演に続き、内容に関する出土品の説明や出張展示『環状列石を世界へ！秋田の縄文巡回展』の展示解説を行った。



谷地所長による出土品の解説

第4回 『芸術の<時層>を旅する～芸術人類学の視点から～』

開催日：11月16日（土） 会場：由利本荘市文化交流館カダーレ 参加者：20名

講師：石倉 敏明 氏（公立大学法人秋田公立美術大学美術学部美術学科准教授）

共催：由利本荘市教育委員会

本セミナーでは、石倉氏のグローバルな見識による芸術人類学の専門家ならではの観点から埋蔵文化財への見解についてお話ししていただいた。講演後も講演内容について参加者からの質問が絶えなかった。



石倉敏明氏による講演の様子

(3) 払田柵跡金曜講座【払田柵跡関連】

史跡払田柵跡を題材に考古学や歴史学について学ぶ。

第1回 8月9日（金） 「考古学とは何か」 参加者：25名

講師：吉川 耕太郎（払田柵跡調査事務所）

第2回 9月6日（金） 「文献史学から秋田の古代を読み解く」 参加者：26名

講師：熊谷 明希 氏（大仙市教育委員会）

第3回 10月4日（金） 「土器から考える秋田の原始・古代」 参加者：27名

講師：安田 創（埋蔵文化財センター）

第4回 11月1日（金） 「東北古代史における払田柵跡」 参加者：27名

講師：高橋 学 氏（雄勝城・駅家研究会）

第5回 1月10日（金） 「奈良・平安時代の美術史入門」 参加者：38名

講師：鈴木 京 氏（県立近代美術館）

一般的な講演会よりも専門的な内容を設定し、歴史研究の上辺だけでなく、学問的な面白さを提供する試みとして開催した。平日開催ではあったが、毎回20人を超える参加者があった。リピーターも多く、昨年度の「サタデーカフェ」とは異なるニーズを把握することができた。



第2回金曜講座の様子

(4) 埋蔵文化財発掘調査報告会

県内で実施した発掘調査の成果を県民に公開する。

開催日：3月14日（土） 会場：県生涯学習センター

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

(5) 県庁出前講座（一般）

埋蔵文化財センターが受け持つ講座で、一般を対象として秋田の歴史や発掘調査情報を伝える。

成沢地区的遺跡 第3回西山を歩こう会

開催日：11月3日（月）文化の日 会場：大川西根公民館 参加者：20名

講師：谷地薰（埋蔵文化財センター所長）

「西山を歩こう会」第3回として実施した出前講座では、大仙市大川西根公民館管内に所在する成沢地区的遺跡5か所を探訪し、現地で遺跡の内容や歴史的背景を説明した。

5 体験教室

(1) 主な体験メニューと概要

目的	活動名	主な内容
縄文の暮らしに親しむ	コースター作り(縄文染め)	様々な縄文文様や土偶などの形にくり抜いた紙型を麻布に被せ、マジックペンで染め付けていくものである。個人のセンスで様々な色合いの作品に仕上がる。
	弓矢体験	竹刀の魔材を利用した竹材に、たこ糸を張って作った弓で、動物がプリントされた的を射る体験である。的には、縄文人が食べていた様々な動物がプリントされ、体験意欲をかき立てる。
	縄文衣装着用体験	麻布で作った縄文衣装を着用して着心地を確かめてみるといったものである。
	火起こし体験	もみきり法などを紹介し、火きり杵(棒)と火きり臼(板)を利用して舞いきり法を中心に実施している。発火にいたらなくても、成功体験が味わえるよう、1摩擦による発煙、2火だね作り、3火だねからの発火という3段階のチャレンジとして取り組んでもらうことにしている。
	ミニ土器レリーフ作り	気軽に施文体験ができるよう、型枠に粘土を埋め込んで作ったミニチュア土器の表面(半面)を各種原体で施文し、オリジナルな土器レリーフを作るものである。
整理作業のおもしろさを知る	拓本体験	初心者でも安心して体験ができるよう、丈夫な須恵器の破片を利用する。打ち終わった拓本は、乾燥させラミネートする。
	土器復元体験	細かなパーツに分解されたレプリカの土器を文様や割れ口などを手がかりにして、組み立て復元を目指す。

(2) オープンラボ

①農業科学館まつり

開催日：6月30日（日） 会場：農業科学館 参加者：233名

農業科学館との連携事業で、磨製石斧製作と使用体験、弓矢体験等の活動を行った。弓矢の弓柄との改良したところ子どもたちに好評であった。磨製石斧製作と使用体験は小学生児童に人気であった。付き添いの大人の方も弓矢体験に夢中になるなど、親子ともに満足感のある催しとなつた。



弓矢体験

②体験教室（児童）【県庁出前講座】

開催日：夏休み・冬休み期間中 会場：公民館、児童クラブ等 参加者：256名

県庁出前講座の中の埋蔵文化財センターが受け持つ講座で、大仙市と横手市、秋田市、男鹿市から12団体の申し込みがあり、縄文体験として縄文コースターづくり、弓矢体験、土器レリーフづくりを行った。

③払田柵跡古代体験フェス2019

開催日：8月8日（木）

会場：払田柵跡史跡公園内 参加者：60名

大仙市教育委員会との連携事業で、木簡はがき・絵馬づくり、勾玉づくり、平安衣装着用、南門登上、火起こし、弓矢、投壺などの体験活動を行った。当センターでは火起こしと弓矢体験を担当した。



火起こし体験の様子

④農業科学館秋の感謝祭

開催日：10月5日（土） 会場：農業科学館 参加者：127名

農業科学館からの要請を受け「農業科学館秋の感謝祭」で、今年度初めて行った連携事業である。今回はコースターづくりを行った。多くの親子連れが活動を楽しんでいた。

⑤体験教室（児童～一般） 縄文の森フェスティバル

開催日：10月27日（日） 会場：秋田市農山村地域活性化センターさとびあ 参加者：431名

県庁出前講座の中の埋蔵文化財センターが受け持つ講座で、子どもから一般までを対象に弓矢体験（屋内）、紋様染め「コースターづくり（屋内）」、火起こし体験（屋外）縄文衣装着用体験（屋内）、ぬり絵・ペーパークラフト（屋内）などの体験活動を行った。このうち一番人気があった火起こし体験では、親子で何度も挑戦する姿が見られた。

⑥サン・アグリンゼミナール キッズコース（冬企画）

開催日：12月14日（土） 会場：県農業科学館

参加者：23名

農業科学館からの要請で今年度初めて行った連携事業である。今回は粘土で小型の縄文土器や遮光器土偶、ペンダントなどを製作した。



製作の様子

⑦埋蔵文化財発掘調査報告会体験教室 期日：3月14日（土） 会場：県生涯学習センター

発掘調査報告会と同じ会場で埋蔵文化財センターの体験活動を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

(3) 自然観察会 in 払田柵跡

開催日：7月27日（土）

講師：酒井 浩氏（わくわく科学工房） 参加者：12名

払田柵跡の自然観察を通し、史跡公園としての払田柵跡に親しむ。学校の夏季休業を利用して親子で参加する会とした。講師の解説を聞きながら払田柵跡にある樹木や草花の植物を観察した。



酒井氏の解説を聞き入る参加者

6 学校利用・研修等

(1) セカンドスクール

セカンドスクールの利用は、県生涯学習課が推進する事業で、教育施設等の人的・物的機能を十分に活用し、学校と教育施設等が一体となって、郷土の自然や文化との触れ合い体験・共同生活体験、各教科や総合的な学習の時間等の取組を複合的に実施する利用方法である。当センターでは、考古資料に様々な形で触ることで社会科、総合学習等をサポートしている。最近は来所しての利用に加え、センター職員が学校に資料等を持参して行う出前授業が増えている。

①利用状況

	小学校	中学校	高等学校	その他	合計
利用件数	21件	10件	10件	0件	41件
利用人数	659名	240名	113名	0名	1,012名

②活動の具体例

縄文時代学習 縄文土器や石器に触れ、用途などを学ぶ。

石器づくり・施文体験 古代の技術を体験することで当時の人々の知恵に学ぶ。

施設見学 特別展示室や整理作業室、収蔵庫で、遺物や整理作業を見学する。

授業サポート 地域の遺跡や文化財の学習を支援する。

出前授業 基本的に「縄文時代学習」と「授業サポート」を組み合わせた授業で、縄文時代を中心に古代から中世にかけての地域の歴史を扱った。出土品を実際に手に取り、地元にも多数の遺跡があることを知ってもらうことによって、児童・生徒の、地域の歴史や文化財への興味・関心を深め、その後の歴史学習に対する意欲を高めることを目的としている。今年度は小学校9件、中学校10件、高等学校2件実施した。

(2) インターンシップ

期間：7月31日（水）～8月2日（金） 会場：埋蔵文化財センター

大曲工業2年4名、大曲高校2年1名 参加者：5名

期日：8月19日（月） 会場：埋蔵文化財センター

秋田大学2年2名 参加者：2名

埋蔵文化財センターの仕事を体験し、勤労観や職業観を育むことを目的としており、拓本づくり、

県庁出前講座（縄文体験）の補助、土偶型枠の汚れ落とし、セカンドスクール体験活動、土器接合キット洗浄、出土遺物洗浄を行った。

（3）県庁出前講座（学校）

サマースクール

期日：7月30日（火） 会場：秋田市立桜小学校 参加者：8名

冬休み子こどもゆざわ学

期日：1月9日（木） 会場：ジオスター★ゆざわ（湯沢市郷土学習資料展示施設）
参加者：8名

県庁出前講座のうち、長期休み中の登校日などに学校からの依頼に基づき実施した。縄文時代の暮らしをテーマに石器体験、縄文衣装着用体験、施文体験、小学校付近の遺跡の説明などを行った。

（4）博物館実習

期間：8月5日（月）～8月9日（金） 会場：埋蔵文化財センター

盛岡大学文学部4年生1名、山形県米沢女子短期大学科目等履修生1名 参加者：2名

埋蔵文化財センターにて埋蔵文化財に関する業務を実習する。実習生2名を対象に、遺物や図書の整理・収蔵、体験教室の準備などの実務のほか、新しい体験メニューの考案を行った。

（5）教員免許更新講習

期日：8月2日（金） 会場：埋蔵文化財センター 参加者：15名

秋田大学が開設する講習の一つとして埋蔵文化財に関する講座を開設している講習で、特別展示室の解説や、本センターの各種「貸し出しキット」の中身や学習教材としての活用を紹介した。

（6）中堅教員等資質向上研修

期間：7月2日（金）～7月4日（木） 会場：埋蔵文化財センター

県立横手高等学校教諭1名 参加者：1名

県立横手高等学校の教諭1名が当センターを選択して、7月2日（金）～4日（木）の日程で研修を行った。3日間を通して史跡払田柵跡第153次発掘調査に参加し、学術調査の方法や意義について学んでいただいた。

7 貸し出し

(1) 貸し出しキット等

学校などに下記のキットを貸し出している。

狩りと漁キット 土器資料キット 調理キット 繩文土器複製キット 壺穴住居キット
原体・粘土キット 繩文衣装キット 火起こしキット 紹介DVD「ようこそ秋田の古代」
古代体験キット・ビデオの貸し出し実績

(2020.03.18現在)

	29年度	30年度	元年度
キット貸出数	4件	4件	2件
ビデオ貸出数	0件	0件	0件
火起こし貸出数	1件	1件	2件

(2) 資料貸し出し

掲載資料の貸し出し・掲載許可等実績

(2020.03.18現在)

	29年度	30年度	元年度
所蔵資料貸出数	38件	21件	35件

今年度の内訳

	使用目的（複数利用含む）		
	展示公開	書籍等掲載	研究他
遺跡出土品	9件	0件	2件
フィルム写真データ	3件	16件	4件
デジタル写真データ	0件	0件	0件
その他の	1件	1件	5件

第3節 その他の活動

1 図書整理・公開

当センターで発刊した報告書等や他県などから送付された報告書等を登録、配架し、図書の利用環境を整備した。

(1) 全国遺跡総覧への公開

弘田柵跡第152次調査関連遺跡の調査概要 トクラ遺跡 堤沢山遺跡 遺跡詳細分布調査報告書（久保田城跡、神田遺跡、高塙遺跡、赤塚遺跡、向田表遺跡、片貝家ノ下遺跡）

(2) 秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」への一般公開

平成30年度企画展パンフレット

2 刊行物

遺跡名	手の上遺跡	発掘調査年	29年度	発行年月	2年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第517集 手の上遺跡 一広域河川改修工事（豊川）事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書一				
内容	遺跡の時代 平安時代 中世 近世				
	遺跡の性格 遺物散布地				
	検出遺構 平安時代：河川跡 1条 中世：木杭列 3条 木杭板組遺構 2基 近世：溝跡 2条				
	出土遺物 平安時代：土師器・須恵器 中世：陶磁器・木製遺物・土製品・石製品・鉄製品・カマド関連遺物・ アスファルト塊 近世：溝跡 2条				

書名	秋田県文化財調査報告書第518集 遺跡詳細分布調査報告書	発掘調査年	元年度	発行年月	2年3月
内容	令和元年度に実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告。				

書名	秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第34号	発行年月	2年3月
内容	宇田川浩一 「延喜式」木工寮削材条が規定する製材ノルマの検討 —「造石山寺関連文書」の明細に見える材木製材量との比較— 安田創 繩文時代における秋田県内出土の土器底部圧痕資料 吉川耕太郎 秋田県南部内陸域における珪質頁岩産地分布調査 —石器石材産地特性の理解に向けて—		

書名	秋田県埋蔵文化財センターワン報37(平成30年度)	発行年月	元年12月
内容	秋田県埋蔵文化財センターの平成30年度の歩みを総括し、I 沿革、II組織・施設、III平成30年度の歩み、IV事業の概要、V研修事業などを記載。事業の概要では、平成30年度発掘調査した遺跡の発掘調査概要、活用・普及事業の実績を掲載。		

書名	一環状列石を世界へー 藏出し！秋田の繩文	発行年月	元年10月
内容	平成31年4月から令和2年2月開催の秋田県埋蔵文化財センター令和元年度企画展のパンフレット。繩文時代の遺物の多様性を紹介。A4判カラー8頁。		

書名	令和元年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料	発行年月	2年3月
内容	令和2年3月14日に秋田市で開催する予定であった、令和元年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会の配付資料。令和元年度に県内で発掘調査された遺跡のうち、主要なものの発掘調査成果について、カラー写真と平易な文章で紹介。県内発掘調査遺跡一覧表と遺跡位置図、年表も掲載。		

3 講演・研究論文等

平成31年4月

〈講演〉谷地薰「小阿地古墳及び湯ノ沢F遺跡出土の鉄刀について」『御所野の歴史文化を語る会研修会』御所野の歴史文化を語る会

令和元年6月

〈講演〉山村剛「発掘調査からみる久保田城跡」『秋田歴史研究会 春の歴史フォーラム』秋田歴史研究者・研究団体協議会

〈発表〉小松和平「秋田県における稻と遠賀川系土器の関係」『令和元年度秋田考古学協会春季研究会「若手研究者の研究報告 24歳の考古学』秋田考古学協会

〈発表〉久住駿介「『小右記』にみられる出羽国の記事について」『令和元年度秋田考古学協会春季研究会「若手研究者の研究報告 24歳の考古学』秋田考古学協会

〈発表〉大上立朗「弥生中期の北陸における管玉製作技術の地域性」『令和元年度秋田考古学協会春季研究会「若手研究者の研究報告 24歳の考古学』秋田考古学協会

令和元年9月

〈発表〉山村剛「発掘調査からみる久保田城跡」『秋田歴研協会誌』第71号 秋田文化出版

〈発表〉大上立朗「北陸玉作集団と東北系集団」『弥生時代研究会 2019年第2回学習会』弥生時代研究会

令和元年10月

〈発表〉大上立朗「北陸の施構分割技術とその展開」『2019(令和元)年度 日本玉文化学会あわら大会研究発表要旨』日本玉文化学会あわら大会実行委員会

〈発表〉大上立朗「北陸における管玉製作技術の地域性とその背景」『近江貝塚研究会第312回例会特集〈玉を通して過去を覗く〉』近江貝塚研究会

令和元年12月

〈論文〉大上立朗「弥生中期後半における北陸玉作集団と東北系集団」『秋田考古学』第63号 秋田考古学協会

〈発表・発表要旨〉村上義直「秋田県内の埋没古代住居」『2019年度 地域の文化遺産普及啓発フォーラム「北海道の古代集落遺跡』北海道文化遺産活用活性化実行委員会

令和2年2月

〈発表・資料〉小山美紀「出羽北部の笏谷石製品」『全国笏谷石研究会資料集』全国笏谷石研究会

- 〈基調報告〉吉川耕太郎「払田柵跡の概要と発掘調査成果」『第46回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』
第46回古代城柵官衙遺跡検討会
〈紙上報告〉村上義直「片貝家ノ下遺跡」『第46回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』同上
〈発表〉村上義直「片貝家ノ下遺跡」『渋川市埋蔵文化財センター 連続講座 第5回』渋川市埋蔵文化財センター
- 令和2年3月
- 〈論文〉赤星純平「秋田県能代市古館I 遺跡出土の擦切石斧素材の発見とその意義」『秋田考古学第6号』(中村由克・小林喜平・山谷峰雄共著) 秋田考古学協会
- 〈論文〉赤星純平「雄物川下流域における珪質頁岩の分布調査」『秋田考古学』第63号(神田和彦・中村由克・五十嵐一治・石川恵美子・嶋影壮憲・根岸洋・矢野行一共著) 秋田考古学協会
- 〈論文〉赤星純平・加藤朋夏・巴亜子・安田創・久住駿介・小松和平・大上立朗「男鹿半島における珪質頁岩の分布調査」『秋田考古学』第63号(神田和彦・中村由克・五十嵐一治・渡部均・加藤竜・矢野行一共著) 秋田考古学協会

4 職員研修会

今年度は、重点目標のひとつに掲げられた「よき公務員、よき社会人、よき人間」となることを目標に職員研修を計画・運営した。新採用職員3名を迎えて、人材の育成は今後数年間はセンター経営上の課題となる。一方、諸処の事情により技術研修会が実施できなかった。今後も本調査が継続的に実施されることから、職員間で今年以上に連携を密に取り計画・運用することが求められる。

(1) 新任職員研修

- ①目 的 秋田県内の埋蔵文化財行政を担当する職員に対して、業務を行う上で必要な基礎的知識についての研修を行い、埋蔵文化財行政の円滑な運営に資する。
- ②期 間 平成31年4月2日（火）～令和元年5月31日（金）
- ③場 所 埋蔵文化財センター及び久保田城跡発掘調査事務所
- ④対 象 新規採用職員
- ⑤研修内容 調査及び資料管理活用について・調査基礎演習・職務研修Ⅰ～Ⅱ・調査実習

(2) 不祥事防止研修

- ①目 的 セクハラが「個人間の問題」を超えて、その被害者は勿論、組織全体にも大きな影響を及ぼす問題であることを自覚する。働きやすくやがいをもって業務に専念できる環境をつくるための方策をグループ協議をとおして考え方を深めること
- ②日 時 令和元年5月14日（火） 本所職員（含む非常勤、久保田城跡出張者を除く）
令和元年5月24日（金） 本所職員（久保田城出張者等を対象）
令和元年5月28日（火） 中央調査班職員（含む非常勤）
- ③場 所 埋蔵文化財センター及び久保田城跡発掘調査事務所
- ④対 象 全職員（講話：正職員及び非常勤職員 協議・発表：正職員）
- ⑤研修内容 講話「不祥事・セクシュアルハラスメント等の防止について」

(3) 特別研修会

- ①目 的 共生社会の実現に向けて、良好な対人関係を育む社会的スキルを身につけ、業務に反映させる。業務をとおしてコミュニケーションをとる上で、配慮を必要とする傾向のある人の特徴と、その実態に対応した関わり方、支援のあり方を具体的に学ぶ。
- ②日 時 令和元年8月23日（金）
- ③場 所 埋蔵文化財センター
- ④対 象 全職員
- ⑤講 師 秋田県立大曲支援学校 教諭兼教育専門監 菅原 吉伸 氏
- ⑥研修内容 講話「共生社会・多様性のある社会の形成に向けて」～インクルーシブな社会をめざして～」

(4) 防災・避難訓練、交通安全講話

実施日：令和元年5月24日（交通安全講話／本所）

実施日：令和元年11月19日（交通安全講話／中央調査班）

実施日：令和元年12月3日（防災・避難訓練／中央調査班）

実施日：令和元年6月21日（防災・避難訓練、AED操作講習／本所）

第3章 運営協議会

1 第1回運営協議会

(1) 期日：令和元年6月18日（火）

(2) 会場：秋田県埋蔵文化財センター 第1研修室、特別展示室

(3) 出席者

委 員：小松正夫委員長、高橋正規副委員長、相場勝也委員（堀川克利委員代理出席）、大西英子委員、嵯峨康弘委員、高橋規子委員、田口雅人委員、渡部育子委員

事務局：谷地所長、清水副所長、柴田総務班長（進行）、袴田調査班長、磯村中央調査班長、村上資料管理活用班長、吉川払田柵跡調査事務所調査班長、鈴木学芸主事（記録）

(4) 報告

①平成30年度事業報告

②令和元年度事業計画

(5) 委員からの主な意見

①提言

* 情報提供したい対象者にマッチした時間帯で放送してもらえるよう「FMはなび」など県内のコミュニティFM局等と連携・交渉するなど、活用してはどうか。

* 学校教育現場での活用プログラムの周知については、学習活動案の実際をホームページ上に載せることにより具体的な利用が進むと思われる。

* 出張展示・セミナーが所在地の大仙市内では行われていない。市内の施設を借りて実施するなど「入口」をつくることで、来所の呼び水とならないか。

* 出前授業とか貸出キットなどには、学校にいながら本物を目にすることができるという魅力がある。各地区校長会・教頭会の場でアピールする方法もある。

* 例えば美郷町の坂本東嶽邸とか、一丈木遺跡の堅穴住居など他の施設や関係機関等と連携してセンターの資源に付加価値を付けていくこともいい。その点で払田柵跡の広大な敷地も魅力がある。

* 大仙市の「ふるさと博士」事業をおしてセンターの活動を直接児童生徒に周知することができる。体験的活動は歴史に关心の薄い児童にも魅力を感じると思う。

②要望

* 払田柵跡金曜講座をおして払田地区の人々に勉強してもらいたい。地区に周知できるような広報の仕方をお願いしたい。

* 考古学セミナーのような連続講座をセンターで実施する方向でできぬいか。

* 新學習指導要領ではそれぞれの学校がふるさとのつながりをさらに深めていくことが求められる。セカンドスクール的な利用は学校にとって有益な事業だ。今後も利用拡大に向け広報や企画の回数など検討してみてはどうか。

③その他

* 活用分野の積極的活動は、業務紹介のリーフレットにあるように非常に地味な研究が支えて

いる。考古学は自然科学系の手法に基づくことからお金がかかる。行政の方にも理解をいただきたい。

* 本来の仕事は県内の緊急発掘調査であるが、時代の要請から、活用に努力が求められる。我々委員からの意見に無理と思っても、検討すること自体が大切だ。向上につながる契機となってくれればと思う。

2 第2回運営協議会

(1) 期日：令和2年2月6日（木）

(2) 会場：秋田県埋蔵文化財センター 第1研修室、特別展示室

(3) 出席者

委 員：小松正夫委員長、高橋正規副委員長、大西英子委員、伊藤雅己委員、瀬田川仁委員、田口雅人委員、山崎裕子委員、渡部育子委員

事務局：谷地所長、清水副所長、柴田總務班長（進行）、袴田調査班長、磯村中央調査班長、村上資料管理活用班長、吉川払田柵跡調査事務所調査班長、乙戸文化財主事（記録）

(4) 報告

①令和元年度事業報告について

②第1回運営協議会における提言と対応について

③令和2年度事業計画について

(5) 委員からの主な意見

① 提言

* 社会教育は、センター組織がどのように活かされていけば良いかという視点に立って見た時に大事。出前でも来所でも、公民館的事業とのタイアップに可能性が見いだせる。

* 美郷町の学友館の連携展示の例を県内各市町村とのタイアップにまで広げてみては。その地域の歴史や文化財について認識を深めるなど、普及を広める役割を果たすのではないか。

* 国際教養大学生とのコラボにより、秋田県内を含めた世界遺産ルートマップをつくり、実際に巡ってもらい、これに感想をいれてもらう。同大学は全国区であるから、全国や海外にまで秋田を伝えていくのでは。

* 従来からの広報方法に加えて、民間企業にポスター、チラシ、展示や体験キット等PR一式を数社に設置し、その結果をフィードバックしてもらう。今後はこのようなアプローチが必要になってくるのでは。

* 学習指導要領改訂で6年生の社会科の学習順が変わる。夏休み前のセカンドスクール実施が充分考えられるタイミングになる。

* セカンドスクール的利用のパンフレットに子どもの声を。「どきどきした」「たのしかった」「他の時代の勉強もっと頑張ってみたい」等、社会科教師が子どもにこんなことをいわせてみたいと思わせる情報があると、利用を考える契機になる。

* 新聞を活用した広報を。例えば、実際に体験キットを活用した授業の様子を取り上げたり、

子どもたちの感想を掲載した記事や、歴史や考古学的なテーマを盛り込んだ子ども向け特集記事には、教師がアクセスしてみたり、児童生徒の関心を促進することにつながる。

* 全県社会科研究会にブース等を設けて、全県の教師にセンターの取組みを知ってもらってはどうか。また貸出キットを持参して学校に赴き、出前講座ができなくとも貸出す等アピールするのも一策だ。

②要望

* 出張展示・考古学セミナー、各地域を巡回しての事業を地域の人たちは相当楽しみにしている。各地域でくまなく実施することで、それぞれの地域住民に関心を持ってもらえるようになる。是非今まで以上に充実させて欲しい。

* 児童クラブの利用を通して一人でも二人でもいいから歴史に興味を持つものが出てくれれば大変素晴らしい。今後とも取組んではほしい。

③その他

* 片貝家ノ下遺跡は全国的に著名な遺跡である。できるだけ史跡を目指す方向になることを期待する。

* 遺跡に関連するイベントで、地元の方たちがボランティア等で盛り上がったり、一生懸命になって参加すると、遺跡全体が盛りあがる。携わっている職員も触発されると思う。

* マスコットキャラクターは重要なアイテム。キャラクター「がんたくん」の活躍の場がどんどん広まってくれれば良い。また「がんたくん」を子どもたちにどうアピールするか。最良の方法は着ぐるみでは。子どもたちに盛りあげてもらうという発想もある。

* 利用する側にとり、ホームページから出前講座や案内を予約できるシステムは大変ありがたい。また地図上で遺跡のリンクが張られている等大変面白かった。ただ、結局はホームページにまで導入する戦略が大切。

* 来年度の払田柵跡金曜講座に大いに期待している、考古学は一般にはなじみがないが、このような企画によってファンの増加が期待できる。

* 払田柵はもうすぐ調査事業50周年を迎える。センターとしても良い事業をして欲しい。

職員名簿

	職名	氏名
	所長	谷地 薫
	副所長	清水 達也
總務班	副主幹（兼）班長	柴田 卓也
	副主幹	大坂 真弓
	主査	武藤 靖
	主事	渡辺 昂
調査班	主任学芸主事（兼）班長	袴田 道郎
	副主幹（本務：松田柵跡調査事務所）	吉川 耕太郎
	副主幹	加藤 朋夏
	文化財主事	巴 亜子
	文化財主事	赤星 純平
	文化財主事	小山 美紀
	文化財主事	森谷 康平
	文化財主事	安田 創
	文化財主事	久住 駿介
	文化財主事	大上 立朗
	文化財主事	小松 和平
資料管理活用班	副主幹（兼）班長	村上 義直
	学芸主事	鈴木 裕
	学芸主事	工藤 伸也
	文化財主事	乙戸 崇
中央調査班	主任文化財専門員（兼）班長	磯村 亨
	副主幹	宇田川 浩一
	学芸主事	伊藤 智範
	学芸主事	山村 剛
	文化財主査	山田 祐子
	文化財主事	富樫 那美

秋田県埋蔵文化財センタ一年報

39

令和2年度

序

秋田県埋蔵文化財センターは、県内に所在する埋蔵文化財の調査と研究を目的として、昭和56年に設立された公的調査研究機関です。主な業務は、国道、ダム建設等の国や県が施工する公共事業に係る遺跡の記録保存を目的とする緊急発掘調査であります。

令和2年度、当センターでは、能代市、秋田市、由利本荘市、にかほ市、大仙市、湯沢市に所在する8遺跡において、約2万3千平方メートルの緊急発掘調査を実施しました。由利本荘市の才ノ神遺跡では、旧石器時代の石器製作跡が1か所見つかり、ナイフ形石器、石核等の約800点に及ぶ資料を得ることができました。子吉川流域での当該期の本格的な調査は初めてのことであり、今後の整理作業も注目されます。また、にかほ市の神田遺跡では、複式炉を有する堅穴建物跡群からなる縄文時代中期の集落跡を検出しました。さらに、大仙市の峰吉川中村遺跡では中世のカマド状遺構、由利本荘市の代官小路遺跡では江戸時代の盛土地業跡を調査しました。

平成20年度に新設された資料管理活用班は、調査で見つかった土器、石器等を活用した普及事業に取り組んでいます。令和2年度は、新型コロナウィルス感染症拡大防止対策で4月中旬から5月上旬まで特別展示室の公開を休止したり、報告会の内容を縮小したりする等、当初計画を大きく変更することになりました。そうした中、企画展「あきた縄文石器への旅」を開催したり、緊急事態宣言が解除されてからは、セカンドスクール、出前授業、出張展示等多くの要望に応えてまいりました。

本書は、令和2年度に秋田県埋蔵文化財センターが実施した事業活動をまとめたものであります。これまで行ってきた埋蔵文化財の緊急発掘調査事業や活用事業は、文化財保護思想の普及・啓発に与してきたものと考えております。

今後とも当センターの関連事業につきましては、より一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、当センターの発掘、活用事業につきまして、懇切丁寧な御指導、御助言をいただきました元所長の大野憲司さんが、昨年4月に急逝されました。大野さんの御冥福を職員一同心からお祈り申し上げたいと思います。

令和3年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所長 磯村亨

目 次

39 令和2年度

序

目次

第1章 令和2年度の歩み	33
第2章 事業の概要	
第1節 発掘調査事業	
1 発掘調査一覧	34
(1) 発掘調査	
(2) 確認調査	
(3) 繼続整理	
2 発掘調査概要	
(1) 鳥野上岱遺跡	36
(2) 茉萸ノ木遺跡	38
(3) 神田遺跡	40
(4) 才ノ神遺跡	42
(5) 横堀中屋敷遺跡	44
(6) 代官小路遺跡	46
(7) 峰吉川中村遺跡	48
第2節 活用・普及事業	
1 活用・普及事業一覧表	50
2 遺跡現地見学会	51
3 展示	
(1) 常設展	51
(2) 企画展	51
(3) あきた埋文出張展示	51
(4) 土器に生ける草花展	53
4 講演会・講座	
(1) 講演会	54
(2) あきた埋文考古学セミナー	54
(3) 払田柵跡金曜講座	54
(4) 埋蔵文化財発掘調査報告会	54
(5) 県庁出前講座（一般）	54
5 体験教室	
(1) 主な体験メニューと概要	55
(2) オープンラボ	56
(3) 自然観察会in払田柵跡	56
6 学校利用・研修等	
(1) セカンドスクール	57
(2) インターンシップ	57
(3) 博物館実習	57
(4) 教員免許更新講習	57
(5) 中堅教員等資質向上研修	57
7 貸し出し	
(1) 貸し出しキット等	58
(2) 資料貸し出し	58
(3) レファレンス	58
第3節 その他の活動	
1 図書整理・公開	
(1) 全国遺跡総覧への公開	59
(2) 秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」 への一般公開	59
2 刊行物	59
3 講演・研究論文等	59
4 職員研修会	
(1) 新任職員研修	60
(2) 不祥事防止研修	60
(3) 特別研修会	60
(4) 防災・避難訓練、交通安全講話	60
(5) 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議 会北海道、東北ブロック会議	60
第3章 運営協議会	61
1 第1回運営協議会	
2 第2回運営協議会	
職員名簿	64

第1章 令和2年度のあゆみ

【令和2年】

- 4月1日 新任式（本所、中央調査班）
- 4月6日 新任職員研修（～4月9日）
- 5月11日 童毛沢IV・V遺跡（能代市二ツ井町）確認調査（～5月15日）
- 5月19日 山口遺跡（湯沢市下院内）確認調査（～5月25日）
- 5月30日 企画展「あきた縄文石器への旅」（～令和3年1月28日）
- 6月1日 鳥野上岱遺跡（能代市二ツ井町）発掘調査（～8月26日）
茱萸ノ木遺跡（能代市二ツ井町）発掘調査（～10月30日）
神田遺跡（にかほ市象潟町）発掘調査（～9月29日）
- 6月2日 オノ神遺跡（由利本荘市徳沢）発掘調査（～9月15日）
- 6月16日 横堀中屋敷遺跡（湯沢市横堀）発掘調査（～10月29日）
- 6月17日 第1回埋蔵文化財センター運営協議会（書面開催、意見及び提言の集約～7月8日）
- 6月20日 オープンラボ（秋田市農山村地域活性化センターさとびあ）
- 6月26日 不祥事防止研修
- 7月4日 あきた埋文出張展示「縄文石器を旅する」（県立図書館、～8月4日）
- 7月6日 代官小路遺跡（由利本荘市裏尾崎町）発掘調査（～7月17日）
中堅教員等資質向上研修（県立新星高等学校教諭1名、～7月8日）
- 7月8日 あきた埋文出張展示「縄文の衣食住」（横手市立雄物川小学校、～7月16日）
- 7月25日 オープンラボ（秋田市農山村地域活性化センターさとびあ）
- 8月7日 オープンラボ【県庁出前講座】（能代市茱萸ノ木遺跡発掘現場）
- 8月30日 史跡払田櫛跡第154次調査 現地見学会
- 9月1日 峰吉川中村遺跡（大仙市協和）発掘調査（～10月30日）
- 9月1日 あきた埋文出張展示「縄文石器を旅する」（仁賀保公民館、～10月22日）
インターネットシップ（秋田大学2名・弘前学院大学1名、～9月4日）
- 9月5日 オープンラボ【県庁出前講座】（大館市立成章小学校）
- 9月14日 県庁出前講座（一般）「秋田の古代と払田櫛跡の発掘調査成果」（茨島7丁目町内会館）
- 9月23日 オノ神遺跡 現地見学会（～9月25日）
- 10月1日 あきた埋文出張展示「蔵出し！秋田の縄文」（秋田市農山村地域活性化センターさとびあ、～11月5日）
- 10月7日 土器に生ける草花展（農業科学館、～10月16日）
- 10月12日 北ノ又沢II・III遺跡（東成瀬村椿川）確認調査（～10月30日）
ヲフキ遺跡（にかほ市象潟町）確認調査（～10月23日）
- 10月21日 片貝家ノ下遺跡（大館市比内町）確認調査（～10月22日）
- 10月25日 オープンラボ【県庁出前講座】（秋田市農山村地域活性化センターさとびあ）
- 10月26日 大南遺跡（にかほ市象潟町）確認調査（～11月6日）
あきた埋文出張展示「八郎潟周辺の縄文・弥生」（八郎潟町駅前交流館はちばる、～11月8日）
- 11月3日 県庁出前講座（一般）「八郎潟周辺の縄文・弥生」（八郎潟町駅前交流館はちばる）
- 11月7日 オープンラボ【県庁出前講座】（秋田市農山村地域活性化センターさとびあ）
- 11月9日 堂ノ前遺跡（にかほ市象潟町）確認調査（～11月20日）
- 11月13日 あきた埋文出張展示「久保田城闇連遺跡－発掘調査で分かった秋田の江戸時代－」（敬愛学園国学館高等学校、～12月2日）
- 11月22日 県庁出前講座（一般）「オノ神遺跡の発掘調査成果」（由利本荘市徳沢交流センター）
- 11月14日 県庁出前講座（一般）「考古学から見た秋田の旧石器・縄文時代の社会と文化！」（ジオスターゆざわ）
- 12月2日 あきた埋文出張展示「久保田城闇連遺跡－発掘調査で分かった秋田の江戸時代－」（秋田クラーク高等学校、～12月14日）
- 12月14日 あきた埋文出張展示「久保田城闇連遺跡－発掘調査で分かった秋田の江戸時代－」（秋田明徳館高等学校、～12月22日）
- 12月18日 特別研修会
- 【令和3年】
- 1月10日 オープンラボ【県庁出前講座】（秋田市農山村地域活性化センターさとびあ）
- 1月13日 あきた埋文出張展示「久保田城闇連遺跡－発掘調査で分かった秋田の江戸時代－」（和洋学園秋田令和高等学校、～1月27日）
- 1月16日 県庁出前講座（一般）「考古学から見た秋田の旧石器・縄文時代の社会と文化Ⅱ」（ジオスターゆざわ）
- 1月16日 県庁出前講座（一般）「神田遺跡の調査成果ににかほ市周辺の縄文文化」（象潟公民館）
- 2月2日 第2回埋蔵文化財センター運営協議会（書面開催、意見及び提言の集約～2月19日）
- 2月16日 久保田城跡発掘調査（～3月25日）
- 3月6日 令和2年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会
※新型コロナウィルス感染症(COVID-19)拡大防止のため、会場での発表中止。本所・中央調査班にて令和2年度県教委が発掘調査した遺跡の出土品、写真パネル等の速報展及び資料配布を実施。
- 3月31日 離任式（本所、中央調査班）

第2章 事業の概要

第1節 発掘調査事業

1 発掘調査一覧

(1) 発掘調査

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査期間	面積 (m ²)	主な時代：性格
1	鳥野上岱遺跡	一般国道7号能代地区線形改良事業 国土交通省(能代河川)	能代市二ツ井町 6/1~8/26	6,500	縄文：狩猟場
2	茱萸ノ木遺跡	通常砂防工事(オンデの沢) 県建設部(山本地域振興局)	能代市二ツ井町 6/1~10/30	3,049	縄文：集落跡
3	神田遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省(秋田河川)	にかほ市象潟町 6/1~9/29	5,250	縄文：集落跡
4	才ノ神遺跡	河川改修工事(芋川) 県建設部(由利地域振興局)	由利本荘市徳沢 6/2~9/30	1,250	旧石器：石器製作跡 縄文：集落跡
5	横堀中屋敷遺跡	国道13号横堀道路事業 国土交通省(湯沢河川)	湯沢市横堀 6/16~10/29	5,400	縄文：集落跡
6	代官小路遺跡	地方街路交付金事業 (停車場柴田町線：裏尾崎町) 県建設部(由利地域振興局)	由利本荘市 裏尾崎町 7/6~7/17	220	江戸：武家屋敷跡
7	峰吉川中村遺跡	雄物川上流河川改修事業 国土交通省(湯沢河川)	大仙市協和 9/1~10/30	803	平安：集落跡 中世：集落跡 近世：集落跡
8	久保田城跡	あきた芸術劇場整備事業 県観光文化スポーツ部	秋田市千秋明徳町 2/16~3/31	208	近世：城館跡

(2) 確認調査

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査期間	面積 (m ²)	主な時代：性格
1	竜毛沢IV・V遺跡	一般国道7号能代地区線形改良事業 国土交通省(能代河川)	能代市二ツ井町 5/11~5/15	9,800	縄文：狩猟場 平安：生産遺跡
2	山口遺跡	国道13号横堀道路事業 国土交通省(湯沢河川)	湯沢市横堀 5/19~5/25	2,000	平安：散布地
3	北ノ又II・III遺跡	成瀬ダム建設事業 国土交通省(成瀬ダム)	東成瀬村椿川 10/12~10/30	7,000	縄文：集落跡・ キャンプサイト
4	ヲフキ遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省(秋田河川)	にかほ市象潟町 10/12~10/23	10,900	縄文：集落跡
5	大南遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省(秋田河川)	にかほ市象潟町 10/26~11/06	5,840	近世：集落跡
6	堂ノ前遺跡	国道7号遊佐象潟道路事業 国土交通省(秋田河川)	にかほ市象潟町 11/09~11/20	4,730	縄文・古代・近世：散布地
7	片貝家ノ下遺跡	大館工業団地開発事業 県産業労働部(産業集積課)	大館市比内町 10/21~10/22	3,300	平安：集落跡・ 墓域・水田跡

(3) 繼続整理

No.	遺跡名	事業名等 原因者	所在地 調査年度	面積 (m ²)	主な時代：性格
1	久保田城跡	あきた芸術劇場整備事業 県観光文化スポーツ部	秋田市千秋明徳町 H.30~31年度調査	12,100	平安：集落跡 江戸：城館跡
2	赤塚遺跡	国道13号横堀道路事業 国土交通省	湯沢市横堀 R元年度調査	2,921	縄文：集落跡

(参考) 払田柵跡調査事務所 ※払田柵跡調査事務所から聞き取ります。

No.	遺跡名	調査目的	所在地		面積 (m ²)	主な時代： 性格
			調査期間			
1	史跡払田柵跡	史跡内容確認	大仙市払田・美郷町本堂城回 6/1-8/27		250	平安；城柵官衙跡
2		払田柵跡関連遺跡調査	横手市・湯沢市・羽後市 10/1-10/23		未定	奈良・平安； 官衙関連又は集落跡

(参考) 市町村教育委員会等による発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査機関	所在地		面積 (m ²)	主な時代： 性格
			調査目的・事業名等			
1	史跡檜山安東氏城館跡 (檜山城跡)	能代市教育委員会	能代市檜山		140	能代市檜山； 城館跡
		史跡内容確認		5/13-10/9		
2	サシリ台遺跡	能代市教育委員会	能代市外巻		600	繩文・平安； 散布地
		(仮称) 能代山本広域風力発電事業		10/26-2-3月		
3	臼ヶ口V遺跡	八郎潟町教育委員会	八郎潟町浦大町		4,500	繩文・平安・ 中世・近世； 散布地
		県営農地集積加速化基盤整備事業		7/1-10/30		
4	史跡秋田城跡	秋田市觀光文化スポーツ部	秋田市焼山		499	古代； 城柵官衙
		秋田城跡歴史資料館		4/27-10/28		
		史跡内容確認調査				
5	久保田城跡	秋田市觀光文化スポーツ部	秋田市千秋公園		68.85	近世；城館跡
		千秋公園整備事業		9/7-10/30		
6	寺田遺跡	美郷町教育委員会	美郷町中野		1,950	平安；散布地
		県営農地集積加速化基盤整備事業		5/1-6/30		
7	張山館I遺跡	美郷町教育委員会	美郷町安城寺		993	平安；散布地
		県営農地集積加速化基盤整備事業		5/1-6/30		
8	金沢城跡	横手市教育委員会	横手市金沢		300	平安・中世； 城館跡
		後三年合戦関連遺跡調査事業		8/18-11/30		
9	下福田東遺跡・下福田 尻遺跡	横手市教育委員会	横手市平鹿町下吉田		2,938	奈良・平安； 集落跡
		県営農地集積加速化基盤整備事業		5/18-7/31		
10	新発見の遺跡(2件)	雄物川・駅家研究会	横手市雄物川町造山		250	奈良；-
		学術調査		10/25-11/30		
11	新谷地西遺跡	由利本荘市土谷			95	不明；散布地
		学術調査		10/25-11/3		
12	鏡田遺跡	国際教養大学アジア地域研究准撲機構	湯沢市松岡		1	繩文；散布地
		学術調査(ボーリング調査)		10/24-10/27		
13	上拝遺跡	東成瀬村教育委員会	東成瀬村田子内		100	繩文；集落跡
		東成瀬村縄文ロマン事業		7/7-10/31		

※令和3年2月現在

2 発掘調査概要

(1) 烏野上岱遺跡

①調査要項

所 在 地	秋田県能代市二ツ井町駒形字多郎兵衛沢50-1ほか
調 査 期 間	令和2年6月1日～8月26日
調 査 面 積	6,500m ²
遺 跡 の 時 代	縄文時代（中期～後期）・平安時代
遺 跡 の 性 格	墓域・狩獵場・生産地
事 業 名	一般国道7号能代地区線形改良事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所
調 査 担 当	伊藤智範、宇田川浩一

②調査概要

検出遺構					主な出土遺物	
縄文時代	溝跡	1条	土坑	2基	柵列	3条
	陥し穴	4基	遺物集中地点	1か所	縄文時代	土器、石器
平安時代	炭窯	1基	土坑	3基	平安時代	土師器
時期不明	炭窯	2基	土坑	4基	道路	1条
	焼土遺構	4基	集石遺構	3基		
	柱穴様ピット	32基				

烏野上岱遺跡は、JR奥羽本線富岩駅から南東約2km、米代川左岸の河岸段丘上、標高約63mの平坦地に立地する。遺跡の北側には縄文時代中期の大規模な集落跡である烏野遺跡が位置している。本遺跡では、平成16（2004）年度に第1次調査、令和元（2019）・2（2020）年度に第2次調査がそれぞれ行われた。

第1次調査では、アスファルト工房と考えられる堅穴建物跡が検出され、本遺跡の南西約2km地点にある天然アスファルト滲出地との関係が注目された。また、第2次調査のうち、令和元年度の調査では、縄文時代の陥し穴11基が標高のやや高い尾根において並んで検出された他、石器の集中出土地点を3か所確認している。

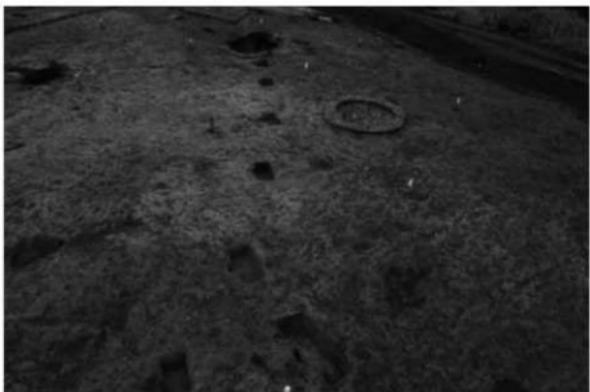
今年度は、第2次調査の対象面積13,300m²のうち、第1次調査区に隣接する西側6,500m²を対象として発掘調査を実施した。

調査の結果、縄文時代では陥し穴4基、柵列3条、土坑2基等が検出された。陥し穴のうち2基には、獲物を誘い込むためと考えられる柵列が連続している。昨年度検出した陥し穴と規模や長軸の方向が類似していることから、同時期のものと考えられる。

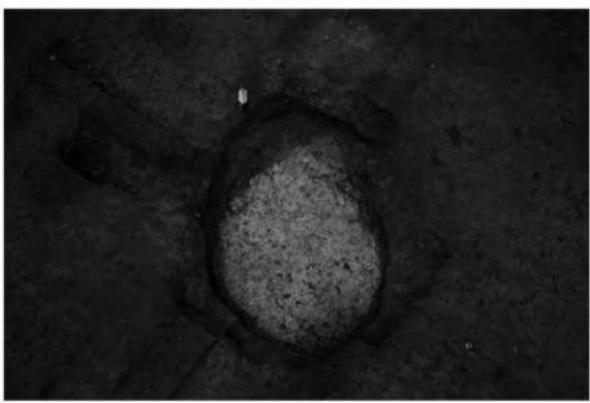
また、縄文時代中期後葉～後期前葉の土坑が2基検出された。覆土上部に焼土が形成されており、焼土層より下の層で、各々から石鐵、ミニチュア土器が出土しており、墓と考えられる。

平安時代の遺構では、埋土中に火山灰を含む円形の炭窯1基と炭化物を充填した土坑3基があり、10世紀第1四半期の土師器が出土している。

縄文時代の
陥し穴と柵列
(西から)



石巣が埋納された
縄文時代の墓
(南東から)



炭化物が充填された
平安時代の土坑群
(西から)



(2) 茅原ノ木遺跡

①調査要項

所 在 地	秋田県能代市二ツ井町荷上場字茅原ノ木167外
調 査 期 間	令和2年6月1日～10月30日
調 査 面 積	3,049m ²
遺 跡 の 時 代	縄文時代（中期）
遺 跡 の 性 格	集落跡
事 業 名	通常砂防工事（オンデの沢）
事業関係機関	秋田県山本地域振興局建設部
調 査 担 当	小山美紀、大上立朗、高橋和成、小松和平

②調査概要

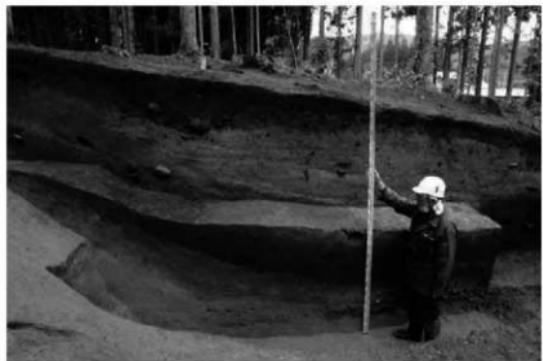
検出遺構				主な出土遺物	
縄文時代	堅穴建物跡	6棟	柵列・柱列	1条	縄文時代 土器、土製品
	土坑	64基	石圓炉	2基	石器、石製品
	配石遺構	4基	盛土遺構	1基	
	土器埋設遺構	19基	柱穴様ピット	107基	
	焼土遺構	28基	性格不明遺構	6基	
時期不明	炭焼遺構	1基			

茅原ノ木遺跡は、JR二ツ井駅から北東約3.7km、米代川とその支流である藤琴川の合流地点から北約3.8km、藤琴川右岸の河岸段丘上に立地する。調査対象範囲8,238m²のうち、今年度は、昨年度からの継続調査箇所を含む3,049m²の調査を行った。

調査の結果、堅穴建物跡、配石遺構、土器埋設遺構、盛土遺構等が多数検出された。盛土遺構は、昨年度調査範囲も含めると、尾根の頂部および南北両斜面を覆う約670m²の範囲で検出され、北西側へも及ぶことが判明した。尾根頂部の地山面からは、中期前葉の堅穴建物跡や土坑が複数重複して検出された。南側斜面の盛土遺構下部からは多数の土器と共に、廃棄された焼土や炭化物・骨片が検出され、捨て場として利用されたと考えられる。その後、中期中葉から末葉にかけて、南側斜面から尾根頂部、北側斜面の広範囲に盛土遺構が形成される。盛土の厚さは、地山を削平して造り出された平坦面上で堅穴建物等の構築・廃絶、焼土や遺物の廃棄が継続的に繰り返された結果、最大約1.1mにも及んでいる。南側斜面では、前段階の捨て場の上面を平坦に削平した後に盛土が形成されていることが確認された。南側斜面上部の盛土中からは、中期中葉の土器埋設遺構が多数検出された。また、沢を挟んだ南西部の平場でも中期中葉～後葉の土器埋設遺構や土坑が検出され、居住域とは異なる利用がうかがえる。

2か年の調査から、中期前葉は尾根頂部に居住域、南側斜面に捨て場が形成され、中期中葉～後葉は尾根部を中心に大規模な盛土遺構が形成されたことが明らかとなった。中期末葉には盛土遺構の形成が終息し、北側斜面裾部～平坦地にかけて列石遺構や配石遺構が構築されたと考えられる。

次年度は、今年度調査区西側の沢部と南側の段丘、約3,230m²を調査する予定である。



(3) 神田遺跡

①調査要項

所 在 地	秋田県にかほ市象潟町字洗釜字神田30ほか
調 査 期 間	令和2年6月1日～9月29日
調 査 面 積	5,250m ²
遺 跡 の 時 代	縄文時代（中期）
遺 跡 の 性 格	集落跡
事 業 名	国道7号遊佐象潟道路事業
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所
調 査 担 当	森谷康平、山村剛

②調査概要

検 出 遺 構				主 な 出 土 遺 物	
縄文時代	堅穴建物跡	16棟	複式炉	9基	縄文時代 土器、土製品
	土器埋設造構	9基	土坑	33基	石器、石製品
	プラスコ状土坑	1基	溝状造構	2条	
	性格不明造構	3基	柱穴様ピット	283基	
	捨て場	1か所			

神田遺跡は、JR羽越本線上浜駅から東へ約1kmに位置し、鳥海山の山裾に形成された標高52m前後の舌状台地上に立地している。台地両脇には鳥海山の湧水が流れる沢があり、遺跡から日本海までは直線距離で約400mある。

調査の結果、堅穴建物跡16棟、複式炉9基の他、土器埋設造構、プラスコ状土坑、捨て場等が検出され、多くの土器や石器等が出土した。堅穴建物跡の床面には複式炉が付設されている。なお、9基の複式炉については、堅穴建物を構成する壁、壁溝、柱穴等が周辺で検出されなかつことから、単独で存在する遺構として扱った。堅穴建物は、遺構の検出が少ない区域を弧状に取り囲むように配置されている。

また、旧河道が調査区内を東西に横断するように存在しており、その一部が捨て場として利用されていたことを確認できた。捨て場は、生活残滓の廃棄行為により形成されたと考えられ、幅約25m、奥行約20m、最大高1.4mの規模を持ち、層位の観察から少なくとも3度の廃棄単位を確認することができた。堆積土からは大木9、10式土器、石匙、石籠等の剥片石器の他、石棒、板状土偶、赤彩土器等が出土し、河道において祭祀行為が行われていた可能性が高い。

本遺跡は、出土した土器の型式や複式炉の形態から、縄文時代中期後葉から末葉にかけて営まれた集落と考えられる。

にかほ市近辺では、本遺跡と同じ時期の集落遺跡が複数存在している。今回の調査で見つかった多くの堅穴建物跡や複式炉について、今後これら集落遺跡の資料と比較検討し、地域性、変遷等を解明していきたい。また、アオトラ石を用いた磨製石斧や黒曜石が出土していること等から、遠隔地との交流についても調査していきたい。



竪穴建物跡と複式炉
(南西から)



調査区南東部
竪穴建物跡集中
(北から)



捨て場から出土した
アオトラ石製磨石斧
(南東から)

(4) 才ノ神遺跡

①調査要項

所 在 地	秋田県由利本荘市徳沢字才ノ神63-2外
調 査 期 間	令和2年6月2日～9月30日
調 査 面 積	1,250m ²
遺 跡 の 時 代	旧石器時代、縄文時代（前期）
遺 跡 の 性 格	石器製作跡・捨て場
事 業 名	河川改修事業（芋川）
事業関係機関	秋田県由利地域振興局建設部
調 査 担 当	巴亜子、赤上秀人

②調査概要

検出遺構				主な出土遺物	
旧石器時代 石器集中部 1か所				旧石器時代	
縄文時代（前期）	捨て場	1か所	焼土遺構 3基	ナイフ形石器、石刀、剥片、石核	
	土坑	4基	溝跡 1条	縄文時代（前期）	
	柱穴様ピット38基			土器、石器	

才ノ神遺跡は、子吉川の支流である芋川左岸の標高約20mを測る河岸段丘上に立地する。現在、遺跡の西側を流れる芋川の流路は、元文年間（1736～1741年）に新田開発のため開削されたものである。遺跡が立地する段丘は、元文年間以前には北西側の丘陵と連続していたことになる。したがって、開削以前の芋川は、遺跡の北側で段丘にぶつかり、段丘裾に沿って東側に大きく蛇行して流れていったと考えられる。

昨年度に続き芋川の河川改修工事に伴い発掘調査を行った。

調査の結果、旧石器時代の石器集中部1か所、縄文時代前期の捨て場1か所、焼土遺構3基、土坑4基等を検出した。

旧石器時代の石器集中部は、調査区中央付近で確認した。約8m四方において石刀を含む剥片や碎片、石核等423点が集中して出土した。石器集中部以外からも、二側縁加工のナイフ形石器をはじめ石刀等が出土しており、総点数は800点を超える。

縄文時代前期の捨て場は、調査区西側において東西2m、南北25mの範囲で確認した。捨て場の東側では、頁岩の巨礫（重さ80kg）が含まれる直径1mの土坑を確認しており、石器の原石を埋納した遺構の可能性がある。調査区内では該期の堅穴建物が確認されなかつたことから、集落本体は沢を挟んだ調査区の東西にあると想定される。遺物は、土器の他に石鏃、石籠、石匙、アオトヲ石製の磨製石斧等が出土した。

今年度の調査により、過年度調査や由利本荘市調査で明らかになった縄文時代の集落のあり方を補完する材料を得ることができた。さらに、縄文時代以前の旧石器時代においても、石器製作の場として利用されていたことが判明し、芋川流域におけるより古い時代の様相の一端が明らかになったことは大きな成果と考える。

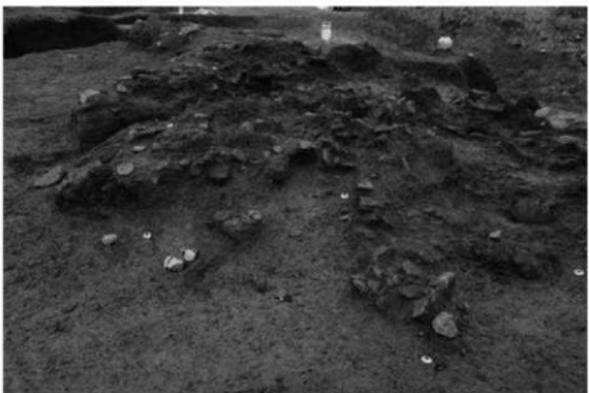
才ノ神遺跡遠景
(南から)



旧石器時代
石器集中部
(東から)



縄文時代前期
捨て場
(東から)



(5) 横堀中屋敷遺跡

①調査要項

所 在 地	秋田県湯沢市横堀字下新田13、小野字大沢田225外		
調査期間	令和2年6月16日～10月29日		
調査面積	5,400m ²		
遺跡の時代	縄文時代（中期～晩期）、中世、近世		
遺跡の性格	集落跡・散布地		
事業名	国道13号横堀道路事業		
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所		
調査担当	赤星純平、鈴木裕		

②調査概要

検出遺構				主な出土遺物
縄文時代	堅穴建物跡	1棟	フ拉斯コ状土坑	11基
	焼土遺構	7基	土坑	22基
	水場遺構	1か所	陥し穴	2基
時期不明	カマド状遺構	1基	柱穴様ピット	69基
	溝跡	1条		近世 陶磁器、錢貨

横堀中屋敷遺跡は、横手盆地の南端に位置し、雄物川支流の寺田川によって形成された標高149mの扇状地上に立地する。調査対象面積は9,150m²に及び、今年度は東側の5,400m²の発掘調査を行った。遺跡の南西約1km先には、縄文時代中期の集落遺跡である赤塚遺跡が位置する。

調査区北側の河川跡の底面付近からは、縄文時代後期の土器とともに多量の木材やトチの種子、薪片等がまとまって出土した。回石や石皿等の礫石器も伴出しており、堅果類の殻割り等の作業が行われた水場遺構と考えられる。遺構内には、加工痕のある木材が残されており、その下には木皮や木片が敷かれていたが、いわゆる水さらし場の存在を裏付けるような木組遺構は検出されなかった。河川跡の源流部は、遺跡の東側にある丘陵裾の扇端部付近あるいは丘陵間に入り込む沢内にると推測される。木組遺構は、源流部に近い未調査区に存在する可能性が高い。なお、河川跡は、調査区南西側でも一部検出されていることから、丘陵部に端を発し、大きく蛇行しながら北に向かって続いていることが分かっている。

河川跡の周辺では、焼土遺構やフ拉斯コ状土坑が検出されており、食糧の煮炊きや貯蔵が行われたと考えられる。また、調査区南端では陥し穴が見つかり、狩猟場としても利用されていたと推定される。

北西側では縄文時代後期の堅穴建物跡1棟を検出した。堅穴建物跡の周囲には、複数の遺構が見つかっており、隣接地に集落が広がると予想される。

中世以降と見られるカマド状遺構や溝跡も見つかっており、縄文時代以降も広い範囲において人々の活動の痕跡が認められている。



調査区遠景（西から）



水場造構（南西から）



整穴建物跡（東から）

(6) 代官小路遺跡

①調査要項

所 在 地 秋田県由利本荘市裏尾崎町8-2ほか
 調 査 期 間 令和2年7月6日～7月17日
 調 査 面 積 220m²
 遺 跡 の 時 代 近世
 遺 跡 の 性 格 武家屋敷跡
 事 業 名 地方街路交付金事業（停車場栄町線：裏尾崎町）
 事業関係機関 秋田県由利地域振興局建設部
 調 査 担 当 富樫那美、山田祐子

②調査概要

検出遺構			主な出土遺物
近世 土坑	8基	溝跡 1条	古代 土師器、須恵器
盛土整地地業	1基		近世 陶磁器、木製品、石製品、金属製品
近代 土坑	1基		近代 陶磁器

代官小路遺跡は、本荘城から北へ150m地点、県道165号線に面した商店が立ち並ぶ住宅地に所在し、子吉川左岸の標高6mを測る子吉川低地に立地する。

本荘城は、慶長年間に最上氏重臣の本城満茂が入部する際に整備された近世城館である。調査区は、複数ある本荘城の城下絵図によると、武家屋敷が建ち並んでいた通りにあたり、当初本荘城の郭内にあり、後に本城氏の退去の際に外濠等が破却され、六郷政乗の転封により城郭が縮小されたことにより郭外となった。

遺跡名となっている「代官小路」は、江戸時代末期の町名である。調査区のある辺りを「大官町」と表記している城下絵図があり、これから転じた町名と推定されている。

調査の結果、江戸時代の土坑、溝跡が検出され、近世陶磁器や下駄・硯・キセル等が出土した。遺構・遺物は、厚さ約1mある地業層上面で見つかっている。この地業は、城普請当初に為されたと推定され、軟弱な地盤の子吉川沖積地に城下町の基礎を作るための地盤改良と考えられる。近くに所在する岩渕藏遺跡では、地業層の下に平安時代の生活面が存在し、多くの遺構、遺物が見つかっているが、本遺跡では江戸時代以前の生活痕跡は見つからなかった。

検出した土坑群は、陶磁器や箸、下駄等の木製品等が出土していることから、最終的にはゴミを投棄して埋められたと考えられる。

遺構内から出土した遺物には18世紀後半以降のものが多い一方で、遺構外からは17世紀前半の陶磁器類や正徳6（1716）年と刻まれている硯等も出土している。また、大正～昭和初期の土坑からは、醤油瓶が逆位の状態で出土している。

今回の調査により、近世～現代の本荘城下の土地利用の変遷等を検証する資料が得られたと考える。



代官小路遺跡と
その周辺
(東→)



近世初期の盛土整地
地業
(北→)



近代の醤油瓶
出土状況
(西→)

(7) 峰吉川中村遺跡

①調査要項

所 在 地	秋田県大仙市協和峰吉川字中村15-8ほか
調 査 期 間	令和2年9月1日～10月30日
調 査 面 積	803m ²
遺 跡 の 時 代	縄文時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代
遺 跡 の 性 格	集落跡・散布地
事 業 名	雄物川上流河川改修事業（中村芦沢地区）
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所
調 査 担 当	高橋和成、小松和平

②調査概要

検出遺構				主な出土遺物
平安時代	竪穴状遺構	1基	溝跡	1条
	柱穴様ピット	2基		縄文時代 土器
鎌倉・室町時代	カマド状遺構	3基	井戸跡	6基
	溝跡	1条	土坑	8基 平安時代 土師器、須恵器 鎌倉・室町時代 須恵器系陶器、瓷器系陶器、青磁、木製品（箸）
江戸時代	土坑	1基		江戸時代 陶磁器
時期不明	土坑	11基	柱穴様ピット	43基

峰吉川中村遺跡は、JR奥羽本線峰吉川駅から南東約1.7kmに位置し、雄物川右岸、標高約16～18mの自然堤防上に立地する。本調査の対象範囲は、遺跡の西端にあたり、平成26年度に実施した本発掘調査の未調査部分である。

調査の結果、縄文時代、平安時代、中世、江戸時代の遺構、遺物を検出した。

調査区西側では、平安時代の溝跡や竪穴状遺構、中世のカマド状遺構や井戸跡等を検出した。カマド状遺構のうち1基は保存状態が良く、天井部の大部分が崩落せずに残存し、周辺で柱穴様ピットを確認しており、上屋が付く可能性がある。

調査区東側は、近代から現代までの墓地として造成された場所であり、大きく擾乱を受けていたが、中世の井戸跡や溝跡、土坑等を検出した。井戸は全て素掘りで、木枠等の材は確認できなかった。堆積土の状況から、人為的に埋め戻され、堆積層の中程に薄い炭化物の層が形成されるものが多いことが分かった。これらは、廃絶に係る儀礼等の痕跡の可能性がある。

出土遺物で最も多いものが須恵器系陶器であり、大仙市南外の大畑・桧山腰窯で製作されたものも含まれる。その他、越前や瀬戸・美濃で生産された瓷器系陶器や中国産の青磁、縄文土器、土師器、須恵器等が出土した。

本調査により、平成26年度の調査で判明した遺跡の性格を補完するとともに、遺跡の西端部が中世だけではなく平安時代から利用されていたことが新たに明らかとなった。



峰吉川中村遺跡
と雄物川
(南東から)



カマド状遺構
底面検出状況
(南西から)



井戸跡
土層堆積状況
(北から)

第2節 活用・普及事業

1 活用・普及事業一覧表

		事業名			事業名は簡略化	
		主な内容		開催時期など		対象
見学会	遺跡現地見学会	史跡払田柵跡第154次調査 神田遺跡 才ノ神遺跡		8/29 8/30(雨天中止) 9/23~25		一般
展示	企画展 あきた埋文出張展示	あきた縄文石器への旅 縄文石器を旅する 縄文石器を旅する 藏出し！秋田の縄文 八郎潟周辺の縄文・弥生		5/30~ 2/28 7/ 4~ 8/ 4 9/ 2~10/22 10/ 1~11/15 10/26~11/ 8		一般
講演会	横手市立雄物川小学校出張展示			7/ 8~ 7/16		小
・	久保田城関連遺跡 第1回 国学館高等学校			11/13~12/ 2		高/一般
講座	久保田城関連遺跡 第2回 秋田クラーク学院			12/ 2~12/14		高/一般
・	久保田城関連遺跡 第3回 秋田明徳館高等学校			12/14~12/22		高/一般
講演会	久保田城関連遺跡 第4回 秋田令和高等学校			1/13~ 1/27		高/一般
・	土器に生ける草花展	土器に草花を生けて展示		10/ 7~10/16		一般
講演会	講演会	最新の考古学的研究成果等の講演		*中止		一般
・	あきた埋文 考古学セミナー	県内の考古学の最新情報や研究成果の講座		*中止		一般
会	払田柵跡金曜講座 【払田柵跡関連】	史跡払田柵跡を深く理解するための払田柵跡調査事務所と連携した講座		*中止		一般
講座	埋蔵文化財発掘調査報告会	発掘調査成果報告と出土品・写真パネルの展示		速報展として 開催		一般
・	県庁出前講座(一般)	発掘調査成果の講座や体験教室等		通年		一般
体験教室	オーブンラボ	農業科学館まつり 払田柵跡古代体験フェス2020 農業科学館秋の感謝祭 体験教室（見童～一般）【県庁出前講座受付】 埋蔵文化財発掘調査報告会体験教室		*中止 *中止 *中止 通年 *中止		小～一般 小～一般 小～一般 小～一般 小～一般
学校	払田柵跡関連	自然観察会 in 払田柵跡		*中止		小/親子
・	セカンドスクール	センター内・出土品見学、体験学習等		通年		小/中/高
研修等	インナーシップ ・ 県庁出前講座(学校)	出土品整理作業や普及活用事業等の職場体験 体験教室や発掘調査成果の講座		9/ 1~ 9/ 4 通年		大 小
教員免許更新講習	博物館実習	考古資料の取り扱い等 *本年度なし				大
貸出	中堅教員等資質向上研修	施設・出土品見学		*中止		教員
・	貸し出しキット等	施設・出土品見学、出土品整理作業体験等		7/ 6~ 7/ 8		教員
資料貸し出し	貸し出し	体験キット、映像資料等の貸し出し		通年		学校等
		収蔵資料の貸し出し、掲載許可		通年		一般

「*中止」とある事業は新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のため中止としたもの。

2 遺跡現地見学会

安全が確保された遺跡において発掘調査中の適切なタイミングで現地見学会を実施し、遺跡の発掘現地において調査成果を県民に公開する。

- | | | |
|-------------------|-------------------|----------|
| (1) 史跡払田柵跡第154次調査 | 期日：8月29日（土） | 参加者：81名 |
| (2) 神田遺跡 | 期日：8月30日（日） | 雨天のため中止 |
| (3) オノ神遺跡 | 期日：9月23日（水）～25（金） | 参加者：100名 |

2遺跡で行われ、合わせて181名が参加した。このうちオノ神遺跡では新型コロナウィルス感染症拡大防止対策として平日3日間、各日4回で人数を制限しながら開催したが、当センターで久しぶりの旧石器時代の石器群が検出されたこともあり、多くの参加者が集まり関心の高さをうかがえた。

3 展示

（1）常設展

これまでに発掘調査した旧石器時代から江戸時代までを時代順に展示した。新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のため展示解説は行わずQRコードによるスマホ音声解説を行った。

	開館時間	見学可能箇所	※は職員の案内によって可能
平 日	9:00～16:00	特別展示室・第1収蔵庫（※）・整理室（※）・中央調査班展示室	
土・日・祝日	9:00～16:00	特別展示室	

（休館日：1月1～3日、成人の日、建国記念の日、春分の日、12月28日～31日）

（2）企画展

年度ごとにテーマを設定し、当センターの収蔵資料を中心に展示する。

『あきた縄文石器への旅』

期間：平成2年5月30日（土）～令和3年2月28日（日）

会場：埋蔵文化財センター特別展示室　来場者：1,247名

1万年にわたって作り続けられた県内の縄文時代の石器について、編年・製作技術・機能・石材等、12に及ぶ切り口でアプローチし、その魅力を紹介した。

（3）あきた埋文出張展示

当センター収蔵遺物やその地域の埋蔵文化財に関する最新情報などを展示する。

『縄文石器を旅する』

期間：第1回 7月4日（土）～8月4日（火）　会場：県立図書館 特別展示室

第2回 9月2日（水）～10月22日（木）　会場：仁賀保公民館 エントランス

来場者：第1回 3,435名　第2回 2,829名

今年度企画展「あきた縄文石器への旅」のサテライト展示として一部内容や展示遺跡を変えて開催した。会場には縄文石器ミニ図鑑を配布資料として設置した。石器だけの展示は珍しく、来館者から好評をいただいた。



県立図書館出張展示の状況

『蔵出し！秋田の縄文』

期間：10月1日（木）～11月15日（日）

会場：秋田市農山村活性化センター さとびあ 正面ホール 来場者：1,884名

秋田市農山村地域活性化センターさとびあととの共催事業として開催した。縄文土器を多く展示する構成で展開を行い、「形の美」、「文様の美-素朴の美-」、「文様の美-装飾の美-」の3テーマを設けて展示を実施した。このほか、県内で出土した土偶や土製品（ミニチュア土器など）を1つのコーナーに集約し、縄文人の感性を来館者に想像させる工夫なども試みた。展示担当者の解説動画のビデオをフロア入口で上映するなどの試みもなされ、数多くの来場者で賑わった。



さとびあの展示状況

『八郎潟周辺の縄文・弥生』

期間：10月26日（月）～11月8日（日）

会場：八郎潟町駅前交流館はちバル ホール・町立図書館 来場者：3,902名

八郎潟町・琴丘町・井川町・五城目町（湖東地区）の縄文時代・弥生時代をテーマに、当センターや県立博物館の所蔵品のほか、各町教育委員会所蔵品、個人蔵の中から土器・石器を厳選して展示了した。また、遺物展示と併せて、世界遺産登録を目指す北海道・北東北の縄文遺跡群の解説パネルの展示も行った。11月3日（火祝）には八郎潟町駅前交流館はちバル開館5周年記念として、出張展示とあわせて当センター所長による講演会（県庁出前講座受付）が開催され、展示解説も行った。参加者は59名である。



はちバルでの展示状況

『縄文時代の衣食住』

期間：7月8日（水）～7月16日（木）

会場：横手市立雄物川小学校 図書室前ホール 来場者：408人

学校からの要請を受け、出前授業後に、図書室前ホールの話題図書コーナーに、土器資料キットや狩猟キットを展示した。設置後、他学年の児童や教職員が集まり興味を示していた。図書コーナーの縄文時代関連書籍等も合わせて目立つ場所に置き、効果的な学習ができるような工夫も見られた。展示を通じ、埋蔵文化財に対する关心や理解を一層高められたと感じる。



雄物川小学校での展示状況

『久保田城関連遺跡－発掘調査で分かった秋田の江戸時代－』

期間：第1回	11月13日（金）～12月2日（水）	会場：国学館高等学校
第2回	12月2日（水）～12月14日（月）	会場：秋田クラーク高等学院
第3回	12月14日（月）～12月22日（火）	会場：秋田明徳館高等学校
第4回	1月13日（水）～1月27日（木）	会場：秋田令和高等学校
観覧者：	第1回 577名 第2回 464名 第3回 664名 第4回 1101名	

当センターでは秋田市中央街区の再開発に伴う発掘調査を近年行っており、久保田城下の近世武家屋敷に関する調査成果が蓄積されている。今回は久保田城跡周辺の高等学校を対象として、久保田城跡・東根小屋町遺跡・古川堀反町遺跡の出土品を4校リレー展示し、日常の通学路の足下に眠る江戸時代に想いを馳せてもらう趣向とした。また、秋田クラーク高等学院、秋田令和高等学校では出前授業の依頼もあり、出張展示とあわせて行った。



秋田令和高校での展示状況

（4）土器に生ける草花展

農業科学館との連携事業として当センターで所蔵する土器に、農業科学館ボランティアの方々により、秋を感じさせる生け花を展示した。

期間：10月7日（水）～10月15日（木）
会場：県立農業科学館 ホワイエ　来場者：1,776名

昨年度は古代の窯跡から出土した須恵器に限定したが、今回は縄文時代から江戸時代まで幅広い時代の遺跡の中から、大館市池内遺跡（縄文）・三種町館ノ上遺跡（弥生）・横手市竹原窯跡（奈良）・横手市富ヶ沢窯跡（平安）・湯沢市館堀城跡（鎌倉～室町）・秋田市東根小屋町遺跡（江戸）・秋田市古川堀反町遺跡（江戸）の出土土器・陶磁器を出品した。来館者からは、土器と生け花の美しいアレンジとその見せ方に来館者から好評をいただいた。



農業科学館での展示状況

4 講演会・講座

(1) 講演会

当センター主催で年度に1回、県内の考古学に関わる講演会を開催する。本年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のため中止とした。

(2) あきた埋文考古学セミナー

あきた埋文出張展示の展示期間中、展示内容に合わせた講演を開催する。本年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のため中止とした。

(3) 払田柵跡金曜講座【払田柵跡関連】

史跡払田柵跡を題材に考古学や歴史学について学ぶ。本年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のため中止とした。

(4) 埋蔵文化財発掘調査報告会

県内で実施した発掘調査の成果を県民に公開する。新型コロナウィルス感染症拡大防止のため会場での発表は中止し、速報展を埋蔵文化財センター・同中央調査班で開催し資料配布を行った。

(5) 県庁出前講座（一般）

埋蔵文化財センターが受け持つ講座で、一般を対象として秋田の歴史や発掘調査情報を伝える。

①「秋田の古代と払田柵跡の発掘調査成果」

開催日：9月14日（月） 会場：茨島7丁目町内会館 参加者：30名

講 師：吉川耕太郎（埋蔵文化財センター副主幹）

②「八郎潟周辺の縄文・弥生」

開催日：11月3日（火） 会場：八郎潟町駅前交流館はちバル 参加者：59名

講 師：磯村亭（埋蔵文化財センター所長）

③「オノ神遺跡の発掘調査成果」

開催日：11月22日（日） 会場：由利本荘市徳沢交流センター 参加者：20名

講 師：巴亜子（埋蔵文化財センター文化財主任）

④「考古学から見た秋田の旧石器・縄文時代の社会と文化Ⅰ」

開催日：11月14日（土） 会場：ジオスタ ゆざわ 参加者：35名

講 師：吉川耕太郎（埋蔵文化財センター副主幹）

⑤「考古学から見た秋田の旧石器・縄文時代の社会と文化Ⅱ」

開催日：1月16日（土） 会場：ジオスタ ゆざわ 参加者：25名

講 師：吉川耕太郎（埋蔵文化財センター副主幹）

⑥「鳥海山麓の縄文時代」

開催日：1月16日（土） 会場：象潟公民館 参加者：60名

講 師：森谷康平（埋蔵文化財センター文化財主任）

②は八郎潟町駅前交流館はちバル開館5周年記念事業の一環として八郎潟町教育委員会の依頼で開催した。④・⑤は湯沢ジオパークガイドの会の依頼でガイド研修の一環として行った。

5 体験教室

(1) 主な体験メニューと概要

目的	活動名	主な内容
縄文の暮らしに親しむ	コースター作り(縄文染め)	様々な縄文文様や土偶などの形にくり抜いた紙型を麻布に被せ、マジックペンで染め付けていくものである。個人のセンスで様々な色合いの作品に仕上がる。
	弓矢体験	竹刀の魔材を利用した竹材に、たこ糸を張って作った弓で、動物がプリントされた的を射る体験である。的には、縄文人が食べていた様々な動物がプリントされ、体験意欲をかき立てる。
	縄文衣装着用体験	麻布で作った縄文衣装を着用して着心地を確かめてみるといったものである。
	火起こし体験	もみきり法などを紹介し、火きり杵（棒）と火きり臼（板）を利用した舞いきり法を中心に実施している。発火にいたらなくても、成功体験が味わえるよう、1摩擦による発煙、2火だね作り、3火だねからの発火、という3段階のチャレンジとして取り組んでもらうことにしている。
	ミニ土器レリーフ作り	気軽に施文体験ができるよう、型枠に粘土を埋め込んで作ったミニ土器の表面（半面）を各種原体で施文し、オリジナルな土器レリーフを作るものである。
	縄文原体づくり	縄文土器や土偶に文様を施すための縄文原体をカラムシや紙ひもで作り、粘土に文様を施してみる体験である。
	石器づくり	珪質頁岩や黒曜石を用いて、原石の打ち割りから矢尻やナイフの仕上げまで参加者のレベルに合わせて体験するものである。
	勾玉づくり	勾玉の事前レクチャーをしたのち、勾玉キットを用いて製作する体験である。
整理作業のおもしろさを知る	拓本体験	初心者でも安心して体験ができるよう、丈夫な須恵器の破片を利用する。打ち終わった拓本は、乾燥させラミネートする。
	土器復元体験	細かなパーツに分解されたレプリカの土器を文様や割れ口などを手がかりにして、組み立て復元を目指す。

(2) オープンラボ

例年、機関連携事業として実施している「農業科学館まつり」、「払田柵跡古代体験フェス」、「農業科学館秋の感謝祭」、夏休みや冬休み中の児童館等でのオープンラボは、新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のため中止とした。それ以外のものについては、県庁出前講座として、依頼者側と綿密な打ち合わせを行い、対策を万全に期した上で次の通り実施した。

体验教室（児童～一般）【県庁出前講座】

開催日：①6月20日（土）	会場：秋田市農山村地域活性化センターさとびあ
②7月25日（土）	会場：秋田市農山村地域活性化センターさとびあ
③8月7日（金）	会場：能代市茱萸ノ木遺跡発掘現場
④9月5日（土）	会場：大館市立成章小学校
⑤10月25日（日）	会場：秋田市農山村地域活性化センターさとびあ
⑥11月7日（土）	会場：秋田市農山村地域活性化センターさとびあ
⑦1月24日（日）	会場：秋田市農山村地域活性化センターさとびあ
内容・参加者：	①勾玉づくり・17名、②土器づくり・16名、③発掘体験・18名、④縄文文様染と弓矢体験・30名、⑤拓本体験・3名、⑥石器づくり・16名、⑦土偶づくり・10名

①・②・⑤～⑦は、秋田市農山村地域活性化センターさとびあととの共催事業として昨年度から実施している。③は、能代市立二ツ井図書館からの依頼で、図書館職員を対象に行った。④は、成章小学校とPTAから親子で学ぶ「ふるさと学習」として依頼があったものである。



勾玉づくり（さとびあ）



石器づくり体験（さとびあ）

埋蔵文化財発掘調査報告会体验教室　期日：3月6日（土）　会場：生涯学习センター

発掘調査報告会と同じ会場で埋蔵文化財センターの体験活動を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

(3) 自然観察会in払田柵跡

払田柵跡の自然観察を通して、史跡公園としての払田柵跡に親しむ企画であるが、本年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のため中止とした。

6 学校利用・研修等

(1) セカンドスクール

セカンドスクール的利用は、県生涯学習課が推進する事業で、教育施設等の人的・物的機能を十分に活用し、学校と教育施設等が一体となって、郷土の自然や文化との触れ合い体験・共同生活体験、各教科や総合的な学習の時間等の取組を複合的に実施する利用方法である。当センターでは、考古資料に様々な形で触ることで社会科、総合学習等をサポートしている。最近は来所しての利用に加え、センター職員が学校に資料等を持参して行う出前授業が増えている。

①利用状況

△	小学校	中学校	高等学校	その他	合計
利用件数	20件	2件	3件	0件	25件
利用人数	558名	87名	75名	0名	720名

②活動の具体例

- 縄文時代学習 縄文土器や石器に触れ、用途などを学ぶ。
- 石器づくり・施体験 古代の技術を体験することで当時の人々の知恵に学ぶ。
- 施設見学 特別展示室や整理作業室、収蔵庫で、遺物や整理作業を見学する。
- 授業サポート 地域の遺跡や文化財の学習を支援する。
- 出前授業 縄文時代を中心に古代にかけての地域の歴史を扱った。出土品を実際に手に取り、地域の歴史や文化財への興味・関心を深め、その後の歴史学習に対する意欲を高めることを目的としている。

(2) インターンシップ

期間：9月1日（火）～9月4日（金） 会場：埋蔵文化財センター

秋田大学3年2名、弘前学院大学2年1名

埋蔵文化財センターの仕事を体験し、勤労観や職業観を育むことを目的としており、埋蔵文化財保護行政に関するレクチャーの後、遺跡出土遺物の洗浄、企画展示のパネル作成及び展示作業、体験活動用具の手入れ等を行った。

(3) 博物館実習

埋蔵文化財センターにて埋蔵文化財に関する業務を実習する。本年度は申し込みはなかった。

(4) 教員免許更新講習

秋田大学が開設する講習の一つとして埋蔵文化財に関する講座を開設している講習で、特別展示室の解説や、本センターの各種「貸し出しキット」の中身や学習教材としての活用を紹介する。本年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のため中止となった。

(5) 中堅教員等資質向上研修

期間：7月6日（月）～7月8日（水） 会場：埋蔵文化財センター

県立新屋高等学校教諭1名

県立新屋高等学校の教諭1名が当センターを選択して研修を行った。3日間を通して史跡払田柵跡第154次発掘調査に参加し、学術調査の方法や意義について学んでいただいた。

7 貸し出し

(1) 貸し出しキット等

学校などに下記のキットを貸し出している。

狩りと漁キット 土器資料キット 調理キット 繩文土器複製キット 壺穴住居キット
原体・粘土キット 繩文衣装キット 火起こしキット 紹介DVD「ようこそ秋田の古代」
古代体験キット・ビデオの貸し出し実績

(2021.02.01現在)

	30年度	元年度	2年度
キット貸出数	4件	2件	4件
ビデオ貸出数	0件	0件	0件
火起こし貸出数	1件	2件	1件

(2) 資料貸し出し

掲載資料の貸し出し・掲載許可等実績

(2021.02.01現在)

	30年度	元年度	2年度
所蔵資料貸出数	21件	35件	26件

今年度の内訳

	使用目的（複数利用含む）		
	展示公開	書籍等掲載	研究他
遺跡出土品	5件	0件	0件
フィルム写真データ	0件	0件	0件
デジタル写真データ	0件	20件	0件
その他の	0件	0件	1件

(3) レファレンス

当センターでは県内の埋蔵文化財等に関する質問を受け付けている。令和2年度から質問内容の集計を始めた。県内外からの問い合わせ件数は次の通りである。

旧石器時代6件、縄文時代71件、弥生・古墳時代5件、古代18件、中近世16件、考古学一般4件、埋蔵文化財センターにすること19件、その他照会等55件（合計194件、2月19日現在）

第3節 その他の活動

1 図書整理・公開

当センターで発刊した報告書等や他県などから送付された報告書等を登録、配架し、図書の利用環境を整備した。

(1) 全国遺跡総覧への公開

手の上遺跡 払田柵跡第153次調査 遺跡詳細分布調査報告書（鳥野上岱遺跡、横堀中屋敷遺跡、ヲブキ遺跡、首先遺跡、片貝家ノ下遺跡）

(2) 秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」への一般公開

令和元年度企画展パンフレット

2 刊行物

書名	秋田県文化財調査報告書第520集 遺跡詳細分布調査報告書	発掘調査年	2年度	発行年月	3年3月
内容	令和2年度に実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告。				

書名	秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第35号	発行年月	3年3月
内容	森谷康平 秋田県内における複式炉の規模と変遷について（1） 大上立朗 弥生時代併行期の北日本における碧玉・鉄石英製管玉の流通 小山美紀 湯沢市館堀城跡出土の在地瓷器系陶器 小松和平 大仙市星宮遺跡未報告資料の再検討		

書名	秋田県埋蔵文化財センター年報38・39 令和元(平成31)・令和2年度	発行年月	3年3月
内容	秋田県埋蔵文化財センターの令和元(平成31)・令和2年度の歩みを総括し、沿革、組織・施設、各年度の歩み、事業の概要、研修事業等を記載。事業の概要では、各年度に発掘調査した遺跡の発掘調査概要、活用・普及事業の実績を掲載。		

書名	あきた縄文石器への旅	発行年月	2年10月
内容	令和2年5月から令和3年2月開催の秋田県埋蔵文化財センター令和2年度企画展のパンフレット。縄文時代の石器の多様性を紹介。A4判カラー18頁。		

3 講演・研究論文等

令和3年3月

〈論文〉 村上義直「平安時代の十和田火山噴火と古代理没建物一片貝家ノ下遺跡を中心にー』『出羽路』第160号 秋田県文化財保護協会

令和3年1月

〈展覧会評〉 吉川耕太郎『『開発』と『保護』が、数千年後に残す未来 展覧会『アイオーン』』NPO法人アートセンターあきたホームページ「アートを楽しむ」

令和3年3月

〈資料紹介〉 赤星純平「秋田県東成瀬村矢櫃遺跡出土の旧石器』『東成瀬村郷土誌－平成篇－』東成瀬村郷土誌編集委員会

4 職員研修会

今年度は、重点目標のひとつに掲げられた「よき公務員、よき社会人、よき人間」となることを目標に職員研修を計画・運営した。人材の育成は今後数年間はセンター経営上の課題となる。技術研修会は、発掘調査における排土処置の方法（才ノ神遺跡）、縄文時代の複式炉の調査方法（神田遺跡）について計画を組んでいたが、諸処の事情により実施できなかった。今後も本調査が継続的に実施されることから、職員間で今年以上に連携を密に取り計画・運用することが求められる。

（1）新任職員研修

- ①目 的 秋田県内の埋蔵文化財行政を担当する職員に対して、業務を行う上で必要な基礎的知識についての研修を行い、埋蔵文化財行政の円滑な運営に資する。
- ②期 間 令和2年4月6日（月）～9（木）
- ③場 所 埋蔵文化財センター
- ④対 象 新任職員

（2）不祥事防止研修

- ①目 的 ハラスメントが「個人間の問題」を超えて、その被害者は勿論、組織全体にも大きな影響を及ぼす問題であることを自覚する。
働きやすくやりがいをもって業務に専念できる環境をつくるための方策をグループ協議をとおして考え方発表し、相互理解を深める。
- ②日 時 令和2年6月26日（金） 本所職員 令和2年7月31日（金） 中央調査班職員
- ③場 所 埋蔵文化財センター・埋蔵文化財センター中央調査班
- ④研修内容 講話「ハラスメント防止研修会」

（3）特別研修会

- ①目 的 共生社会の実現に向けて、良好な対人関係を育む社会的スキルを身につけ、業務に反映させる。業務をとおしてコミュニケーションをとる上で、配慮を必要とする傾向のある人の特徴と、その実態に対応した関わり方、支援のあり方を具体的に学ぶ。
- ②日 時 令和2年12月18日（金）
- ③場 所 埋蔵文化財センター
- ④講 師 秋田県立角館高等学校定時制課程 教諭兼教育専門監 大沢 貴子 氏
- ⑤研修内容 講話「良好な対人関係をはぐくむ社会的スキルについて」

（4）防災・避難訓練、交通安全講話

実施日：令和2年11月19日（冬の交通安全講話／中央調査班）

実施日：令和2年12月8日（防災・避難訓練／中央調査班）

（5）全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議

本年度は当センターが事務局として県内で開催する予定であったが、新型コロナウィルス感染症拡大防止対策として書面での開催とした。

第3章 運営協議会

1 委員：小松正夫委員長、高橋正規副委員長、大西英子委員、加藤勝則委員、瀬田川仁委員、
田口雅人委員、照井政裕委員、堀川克利委員、山崎裕子委員、渡部育子委員

2 事務局：磯村所長、藤原副所長、柴田總務班長、村上調査班長、狩田中央調査班長、
吉川資料管理活用班長、谷地払田櫻跡調査事務所班長

3 第1回：書面開催（意見及び提言の集約 令和2年6月17日～7月8日）

- (1) 案件
 - ① 令和元年度業務実績報告
 - ② 令和2年度業務計画案
 - ③ その他（要望等）

（2）提言

- 新学習指導要領を踏まえた小中高への働きかけ（指導要領の内容を紹介したチラシの作成、中世・近世の学習プログラムによる通年の活用の促進、実物教材等を紹介する学校訪問等）
- 教育研究会との連携（研修会など関係者が集まる場を活用しての積極的な情報発信等）
- 公民館での出前講座（夏休み、冬休みの児童受け入れプログラムへの参加等）
- 児童生徒の興味・関心を高める学習プログラムの開発（目玉となる体験的なプログラムの開発、学校近隣の遺跡をクローズアップした資料の作成等）
- 学校での出張展示の充実（「価値ある本物」感の演出 例；「本物です！埋蔵文化財センター」ののぼり旗、図書館等での展示による図書資料との関連付け、新聞記事や学校の近隣遺跡を示した資料の提供）
- 学校が利用できる様々なプログラムがあるようだが、利用件数はまだ少ない。埋文の事業内容をいかに学校関係者に知ってもらうか、さらなる工夫、努力が必要だろうと考える。
- センター前の県道を車で走っていても埋蔵文化財センターであることが少し分かりづらいと思われる。一目で分かるような看板表示をすることはできないものか。

（3）要望

- 今年度も同じような事業が計画されているが、下期も新型コロナの影響が懸念される。感染等も危惧されるが、県民が待望する事業も多々あると思われる所以、対策を講じた上で可能な事業については、実施の方向で考えていただきたい。
- 今年度は、新型感染症拡大防止の対応の必要性があり、すでに中止が決定されている事業が多くあり、これまでのように利用者数などによりその成果をとらえていくことは難しさがあると思われる。しかし、昨年度までの成果を、ぜひ今後につなげていただきたい。

- 新型コロナウイルスが落ち着いた際には、昨年度の事業として行われた、一般向けの金曜講座（払田柵跡関連）がとても好評だと感じたので、できましたら是非継続していただきたい。
- セカンドスクール的利用については、学習指導要領が改訂になったことにより、以前よりも時期的に利用しやすくなったと考えられる。今年は学校側にも特別な事情があるが、今後は伸びることが予想されるので、これまで同様に子供たちにとって充実した学びができるようにしていただければありがたい。

（4）その他

- 払田柵跡調査50周年記念事業についての提案

- ・秋田県埋蔵文化財センターでの特別展、秋田県内の巡回展、関東・関西での特別企画展、記念誌等の刊行

4 第2回：書面開催（意見及び提言の集約 令和3年2月2日～2月19日）

- （1）案 件 ① 令和2年度事業報告
- ② 令和3年度事業計画案
- ③ その他（払田柵跡調査事務所設立50周年記念事業等）

（2）提 言

○発掘調査はもちろんのこと、イベントも密と熱中症を避けながら、対面で、現地で実施した点は大いに評価されるべきである。現地に立ってみる体験、遺物にさわってみる体験はリモートではできない。埋文センターの“対面ノウハウ”は学校教育の現場にも還流できるのではないかと思われる。

○今年度の活動にあたって苦労した点、工夫した点などを記録しておくことは、コロナ禍が終息したあとも、何らかの意味をもつものではないかと思われる。

○コロナ禍を逆手にとって、人數制限を考慮した上でオンラインによる「巣ごもり払田柵跡サタデーカフェ」等、一味違った手法を取り入れて見るのも一趣向ではないか。

○（土器に生ける草花展）出土品の活用という意味において有効な手段と思われます。参加者にとっては、普段お座敷での生け花とは異なる満足感を得ていると感じます。ただ、展示状況については一抹の不安も見られます。大きな土器を載せる台としては、長机の奥行きが浅く不安定さを感じます。また、老人や子どもの観覧者もいることを考えれば、もう少し安定性のある展示台や多少の力ではズレにくい展示クロスの配慮も必要かと思います。

○「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録、秋田内陸縦貫鉄道「秋田縄文号」のデビュー、さらに周遊マップ「JOMON MAP」の作成など埋蔵文化財に対する機運が高まっている時宜を得て、サイトにより気軽に見学できる場所や案内ガイドができる場所などの紹介や秋田内陸線や国道105号線（マタギロード）を中心とした県北と県南を結ぶ地域でストーリー性ある企画事業（縄文

学びのフォトラリー、秋田の縄文周遊マップづくり（秋田県遺跡地図とは別に）など）を展開していくことも学びの機会の提供（初心者向け）になるものと感じている。

- 各地区小中の社会科研究団体では、夏休み等を活用しての自由研究を奨励し、発表会や作品展などを実施しているが、考古学に関する自由研究をサポートする次のようなプログラムを提案する。
 - ①各小中学校や社会科研究会へのちらしの配布と児童生徒の募集、②発掘現場での体験や資料等の作成に関する学習会の実施、③各地区での発表後、模造紙などの作成資料を複製し、センターへ展示する等。児童生徒の考古学への関心を高めるだけでなく、考古学に関わる人づくりにつながる可能性もある。また、このような取組等をして好評だった例があることを情報提供することで、学校が主体的に取り組むきっかけをつくっていただきたい。

（3）要望

- 埋文には、発掘した資料を基に、新たな（興味深い、おもしろい）知見を提供していただき、子どもたちの歴史の見方・考え方を深めていただければと期待しています。
- 若い世代の関心を高め、埋蔵文化財を後世に引き継ぐ役割を担っていただけるよう今後も調査、普及活動にご尽力いただきたいと思います。
- 毎年の事ながら多くの（活用・普及関係）事業を行っているが、中でも普段あまり目にすることのない発掘調査の写真や出土遺物を展示する「出張展示」は、各地域に住まいする多くの根強い考古学ファンの最大の楽しみになっていると感じている。今後も様々な工夫を取り入れて魅力的な事業として継続してほしい。
- 払田柵跡があるからこの地に秋田県埋蔵文化財センターという展示室のある素晴らしい施設があることは地域の人々も認識しているところです。ですが、なかなか足を運ぶことができずにいる方も多くいらっしゃるように感じます。再び金曜講座のような企画を提供してくれば、考古学、歴史好きな方達が気軽に学ぶことができると思いますので、是非払田柵跡をより多く知ることができるよう復活するようお願いします。

（4）その他

- 払田柵跡調査50周年記念事業について提案します。
 - ①埋蔵文化センターでの特別展、②県立博物館、生涯学习センター、県立図書館等での巡回展、③新聞社等と連携して、東京、関西での特別展、④「50年のあゆみ（仮題）」等の刊行、⑤シンポジウム「払田柵跡調査の過去・現在・未来（仮題）」の開催（シンポジストは発掘担当者）
 - ・50周年記念シンポジウム開催の提案は、意義あるものと思います。50年の活動を総括したもの、また新たな一歩を踏み出すきっかけになるようなシンポジウム等が企画されることに期待しています。
 - ・（払田柵跡の）発掘調査が始まつてから50年近くになると思います。今後の調査と記念事業に期待しております。

第4章 職員名簿

	職名	氏名
	所長	磯村 亨
	副所長	藤原 健
總務班	副主幹（兼）班長	柴田 卓也
	副主幹	大坂 真弓
	副主幹	柴田 優
	主事	渡辺 昂
調査班	副主幹（兼）班長	村上 義直
	学芸主事	鈴木 裕
	学芸主事	赤上 秀人
	(兼)文化財主査(本務：払田柵跡調査事務所)	谷地 薫
	文化財主査	高橋 和成
	文化財主任	巴 亜子
	文化財主事	赤星 純平
	文化財主事	小山 美紀
	文化財主事	小松 和平
資料管理活用班	文化財主事	大上 立朗
	副主幹（兼）班長	吉川 耕太郎
	学芸主事	工藤 伸也
中央調査班	文化財主事	乙戸 崇
	主任文化財専門員（兼）班長	袴田 道郎
	副主幹	宇田川 浩一
	学芸主事	伊藤 智範
	学芸主事	山村 剛
	文化財主査	山田 祐子
	文化財主事	富樫 那美
	文化財主事	森谷 康平

秋田県埋蔵文化財センター年報38・39

令和元(平成31)年度・令和2年度

発行 令和3年3月

秋田県埋蔵文化財センター

〒014-0802 大仙市払田字牛嶋20番地

電話 (0187) 69-3331

FAX (0187) 69-3330

〔URL〕 http://www.pref.akita.jp/gakusyu/maibun_hp/index2.htm

